

著

僕ほんとうはよくしりません

成人向

t a m a m u s u b i

鬼滅の月 非公式同人誌

煉獄杏寿郎

×

竈門炭治郎

MISSID





竈門少年と任務か！
元気そうで何よりだ

しかしいつも
背負っている
妹が見当たらないが
どうした！



先日の任務で
体力を消耗したため
蝶屋敷で預かって
いただいています！

そうか！



びい



ところで少年！

食事は
済ませたか！









俺は以前この山に
小隊任務で
来たことがある

ブゴ
ブゴ

そう
なんですか!?

入り組んだ谷と
崖が多い地形なので
足場に気を付けてくれ

雨が降ると特に
滑りやすい

はい!!!

さて…
今回の任務は
山中に潜み
村人を襲う鬼の殲滅

報告によれば現在
村人13名が行方不明



情報が薄いため
具体的な作戦は取らず
君は後方援護

状況に応じて
策を講じる
こととする



5名の鬼殺小隊が
任務に当たったが
内4名が忽然として
消息を絶った

身を隠して難を逃れた
1名の報告によれば

鬼が血鬼術と思わしき
衝撃派を発し
それを受けた者の
姿が消えたようだ



はいっ!

ぽっ
ぽっ





……いや

大丈夫だ

……っでも
顔色が



心配ありがとう

遠い昔受けた古傷が
少し痛んだだけだ

大事ないよ



……

煉獄さんのように
強い人でも未だ
後遺症が残るような
深い傷を……



うむ!!
今でこそ

致命的なものを
受けることは
少なくなったが

年若い時は
経験も少なく
未熟だったからな

「おれも
なやめた」

不甲斐なし!



……



……不甲斐
なくなんて……

ありません……







……しかし
上弦の猗窩座で
あっても特別視
することはない



無惨を倒す
だたの通り道……
他と違わぬ
一匹の鬼だ

俺の受けた怪我を
気にすることも無い



物事ひとつへの
強い感情――

固執や執着は
判断を鈍らせる

……見誤れば――



時として
自分を蝕む
毒となるのだから



……毒



…胡蝶の診断によると
これは精神的な
ことからくる痛み

ゆえに鎮痛薬は
効かないそうでな



せめて
しのぶさんから
いただいた
鎮痛薬を

あの…でも
煉獄さんから
痛みの匂いが
します…!!

！
匂いでそこまで
わかるのか



足を止めさせて
しまったな！
出発しよう!!

あっ！



……精神的

……その傷に
そんなに辛い
思い出が…



……うむ

…この傷を受けた
雨の日の任務で

大切なものを
失ったから――





…っやった…！

鬼の首を
切ったぞ！



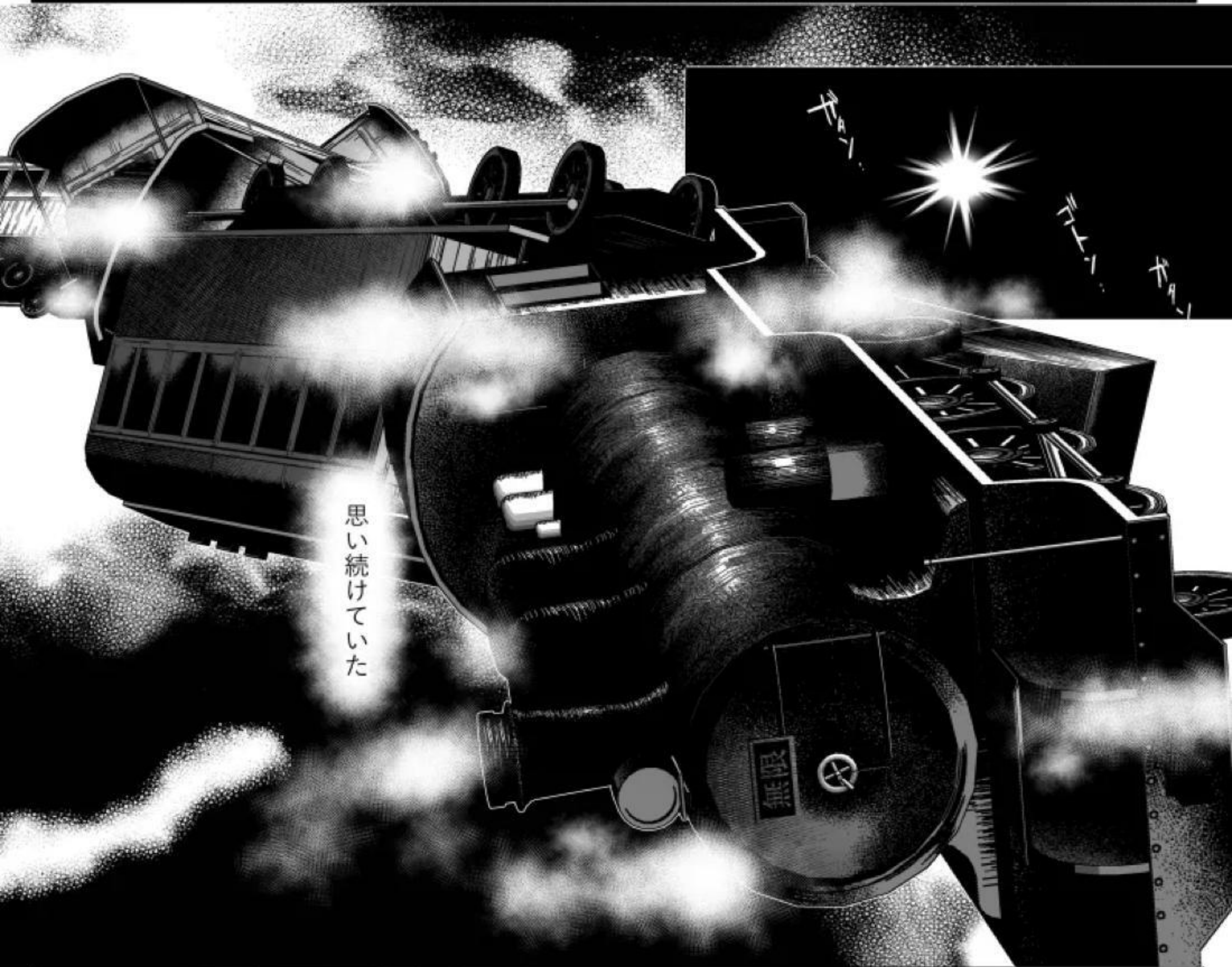
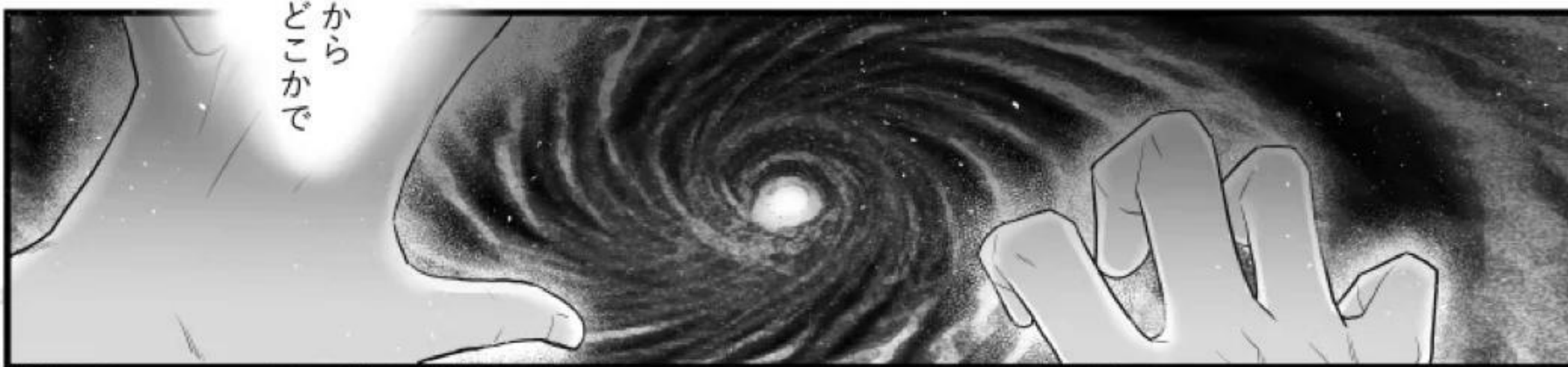




寵門少年!!



あの時から
ずっとどこかで



思い続けていた



俺が煉獄さんの代わりに



何度もそう思った

何度も夢に見た

あの時のこと

弱い自分

やり直せるなら
きっと――

きっと
あなたを







君

あっ……!

……煉獄さ



それに
なんだ……?

さっきまで戦っていた
森の中じゃないか?

どういうことだ?
夢を見ているのか……?



ん……

……派手な髪も匂いも

さっきまで一緒にいた
煉獄さんのものだけれど

……煉獄杏寿郎さん……

……少し
年若いような……

です……よね……?



ここは東京
桜新町にある
煉獄本家

うちの庭に君が
倒れているのを
今しがた見つけた

…あ…あの
ここは一体…



…うむ

確かに俺は
煉獄杏寿郎だ



…なぜ俺の名前を
知っている

しかも煉獄さんは
俺のことが
分からないようだし

よもや隊士に化けた
鬼ではあるまいな



煉獄家…

歴代の炎柱が
残した
手記がある

煉獄さんが
言っていた
生家のことか…？

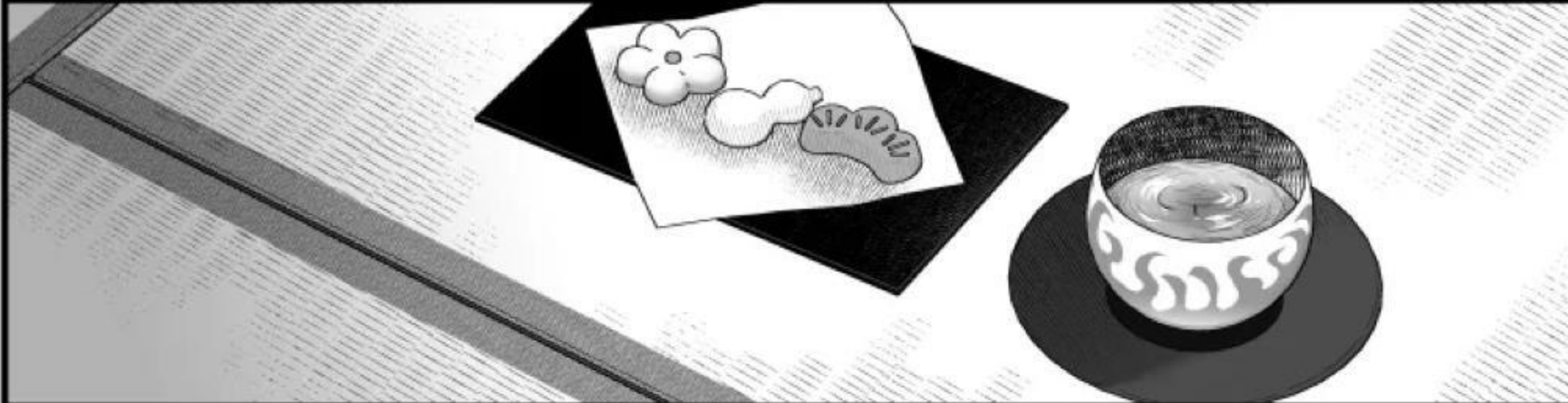


どういう
ことだ…

見たところ
鬼殺隊隊士で
あるようだが

俺の記憶によれば
君のような
隊士の所属を
把握していない







俺は20歳の炎柱
煉獄杏寿郎さんと
山中で任務を
していました

ですがその最中に
血鬼術を受けて
目が覚めると
この見知らぬ土地に



一緒に任務をしていた
煉獄さんが年若いことと
今が明治だとお聞きした
ことを踏まえて…

そうじゃないかと
思っています



それと
首を切った鬼が
時空の狭間に
飛ばされてしまえ
—
と言っていたのも

その可能性に
紐づけることが
できるかと



…ふむ



炎柱との任務
というから
父上と間違えている
かと思ったが

壮年であるし
今は任務に出られて
いないからな
俺の名前を断定している

滅



血鬼術によって
ここに居るのなら

鬼の首は切ったのだから
時が経てば元居たところへ
帰ることが出来る可能性が高い

……

君の言っていることは
辻褄が合うし
信じてやりたい

かと言え俺はまだ
君のことを知らないから
全てを鵜呑みに
するの憚られるが
どうしたものか



……

……そう

こんなところで
グズグズして
られない

ですよ……



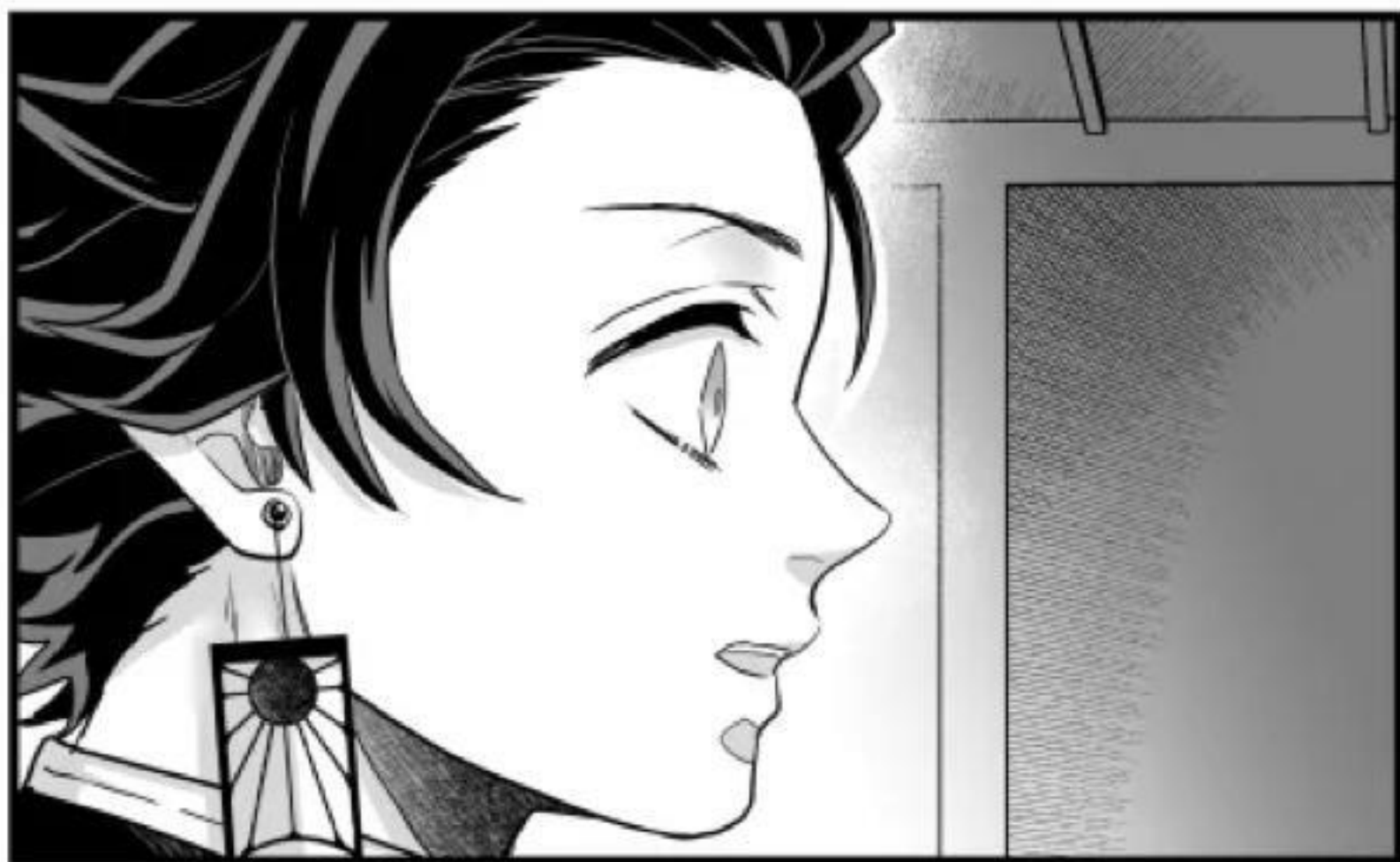
早く
帰らなければ
ならないのに

禰豆子……

それに
煉獄さん

あの時痛みに
苦しんでいた

身体は
大丈夫だろうか……



安直だけれども
あの術で過去へ
飛ばされるん
だとしたら

……煉獄さん
ひとつ――

お伝えしたい大事な
ことがあります

俺がこの縁のない
煉獄さんの過去に
飛ばされたのは

彼を助けられなかった
強い後悔の想いが
作用したのかも知れない

彼を助ける確率が
上がるのならば
なんだっていい

……たとえ信じて
もらえなくても

……っ実は
この先

待て

少しでも
気に留めてくれれば
あるいは



未来の君と深い関わりのある者との接触を持ち助言でもしようものなら

その者の運命を変えてしまうことになるかもしれない

君が言っていることが本当だと仮定して推測する持論だが

あまり過去の事象に触れない方がいいと思う



消えるわけにはいかない……

禰豆子を人間に戻すまでは――



……それでも煉獄さんに傷ついて欲しくない気持ちも本当だ



つまりはのちのちここにいる君が消えてしまう道を選ぶことになるやも

……っ！



俺自身が炎柱になった
という事を知れて
喜ばしく精進の励み
となったが

これ以上
未来のことは
話さないでくれ！



その様子だと君は
俺の未来に関わる
重大なことを伝えようと
してくれたのではないか
ありがとう

！



たとえどんなに
大切な生命に関する
ことだとしても

それは人間の
定めであり

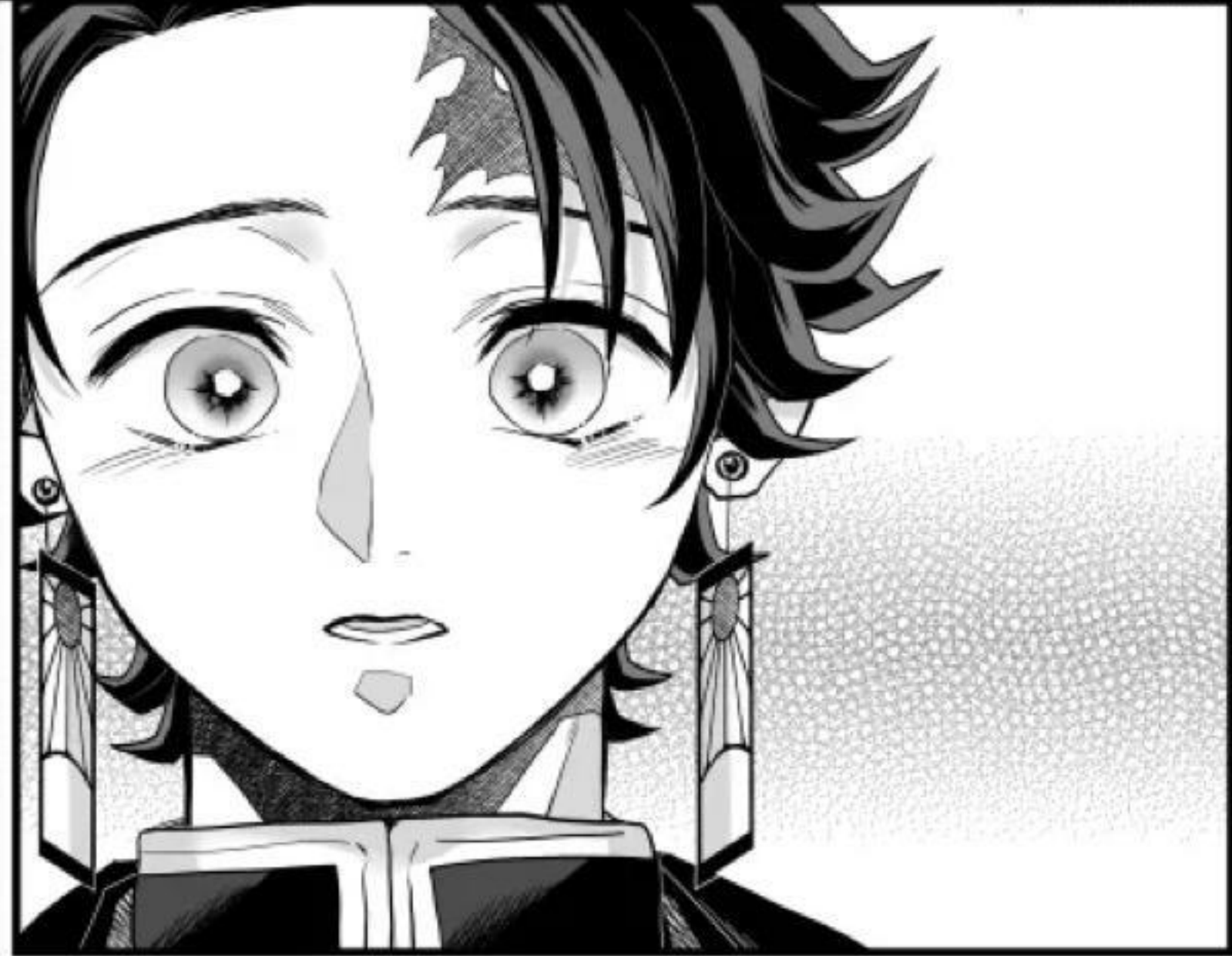
運命を退けることは
道理に反する！



何より俺は

どんな困難な運命が
待ち受けようとも

全てに全力で
立ち向かい
自分で切り開く！





不相応な想い

同性の男で
何も取り柄のない俺が
彼に選ばれる
こともない

ありがとう
ございます！

生まれ落ちた
瞬間から
報われぬ想いを

決して口に
することは無い

現在この家の
敷地には全部で
四人住んでいる

父上と俺と
弟の千寿郎
離れにお手伝いの
ひささんだ

母は俺が幼い頃に
亡くなったので
ここにはいない

！

…けれど
せめて…

うむ！

ではさっそく
家を案内しよう

あなたの幸せを
そばで願うことだけは
許してほしいんだ



ちなみに君は
いくつなんだ！

俺は今16です！

俺は！



：煉獄さんのお母さん
小さな時に亡くなって
いたのか…

俺も父さんが
死んだとき
幼かったけど
家族がいて
くれたから

先代の炎柱は
忙しかっただろうから
きつと寂しかった
に違いない…



まさか俺より年上
だとはな…
童頼だな…

！
童…！
童…！



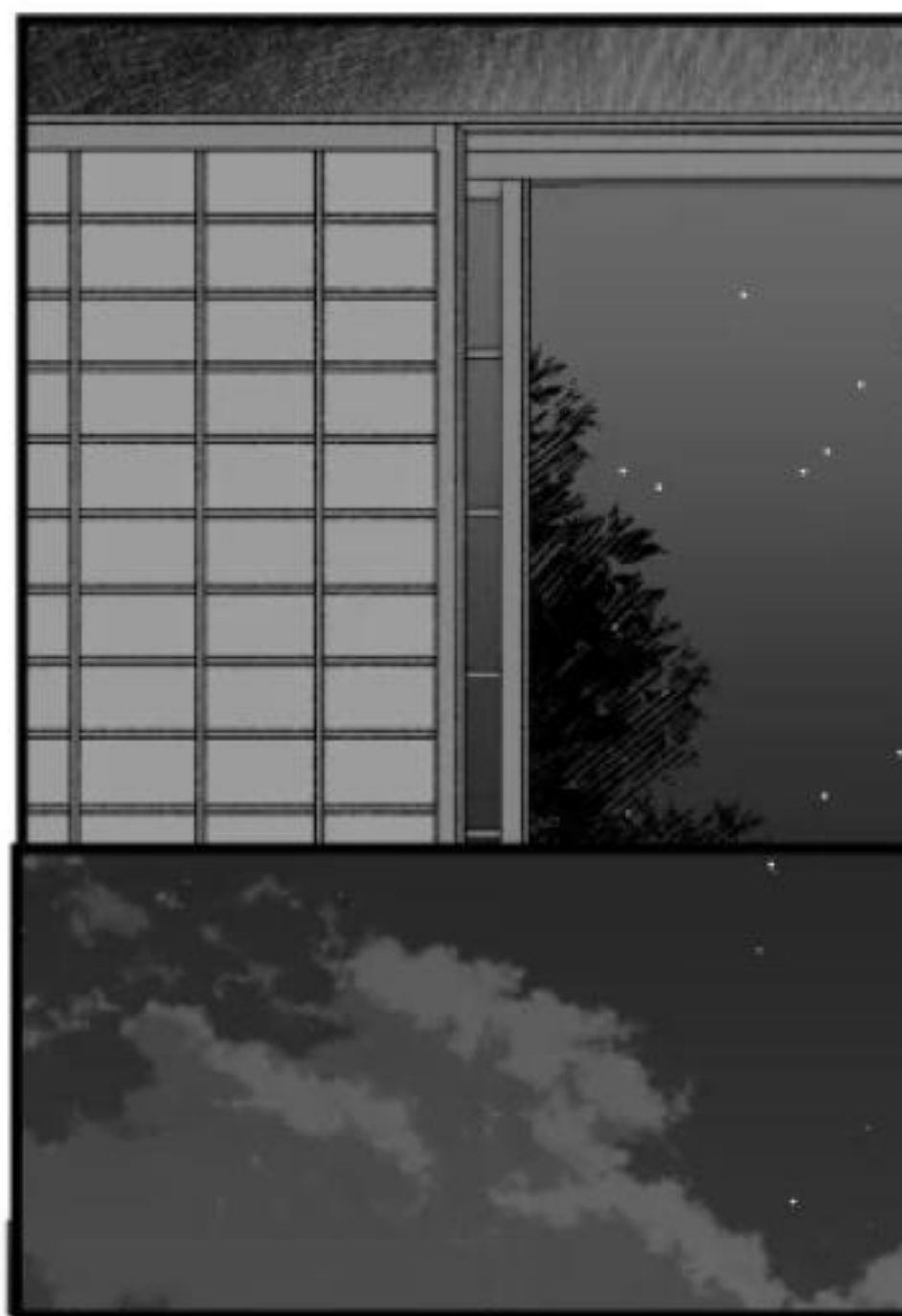
この離れは
客間になっている

家族に気兼ね
することなく
自分の部屋として
使ってくれ

ありがとう
ございます！

「いっしょにお手伝い
してくれ…」
弟の千寿郎だ

「お前、
お世話をなさい」
お世話をなさい



うまいっ！

うまいっ！

うまいっ！





弟の面倒まで
見てくれているのか



客人として
招いたはずが
世話をかけてしまっ
てすまないな

いえ、お世話だなんて！
千寿郎君に色々
教えてもらって
いるんです！

君は優しい
な！！



うまい！！
うまい！！

うまい！！
うまい！！

うまい！！
うまい！！

……ところであの



食事の時間なので
そろそろお父さんを
呼んできましようか？





父上は母上が
亡くなってから

以来心を閉じ
部屋に籠っている



俺たちと話すことも
関わることもない

もうずっと…
何年も――



おう!!
辛気臭くなって
しまった!

父に作って
くれた食事は
俺がいただいても
いいだろうか!
つまぐて最限無く
食べられる!!



とても寂しい
匂い……



いつも快活で
優しく明るい笑顔の
煉獄さんの心の底に



…できる
ことなら俺が
ここで…

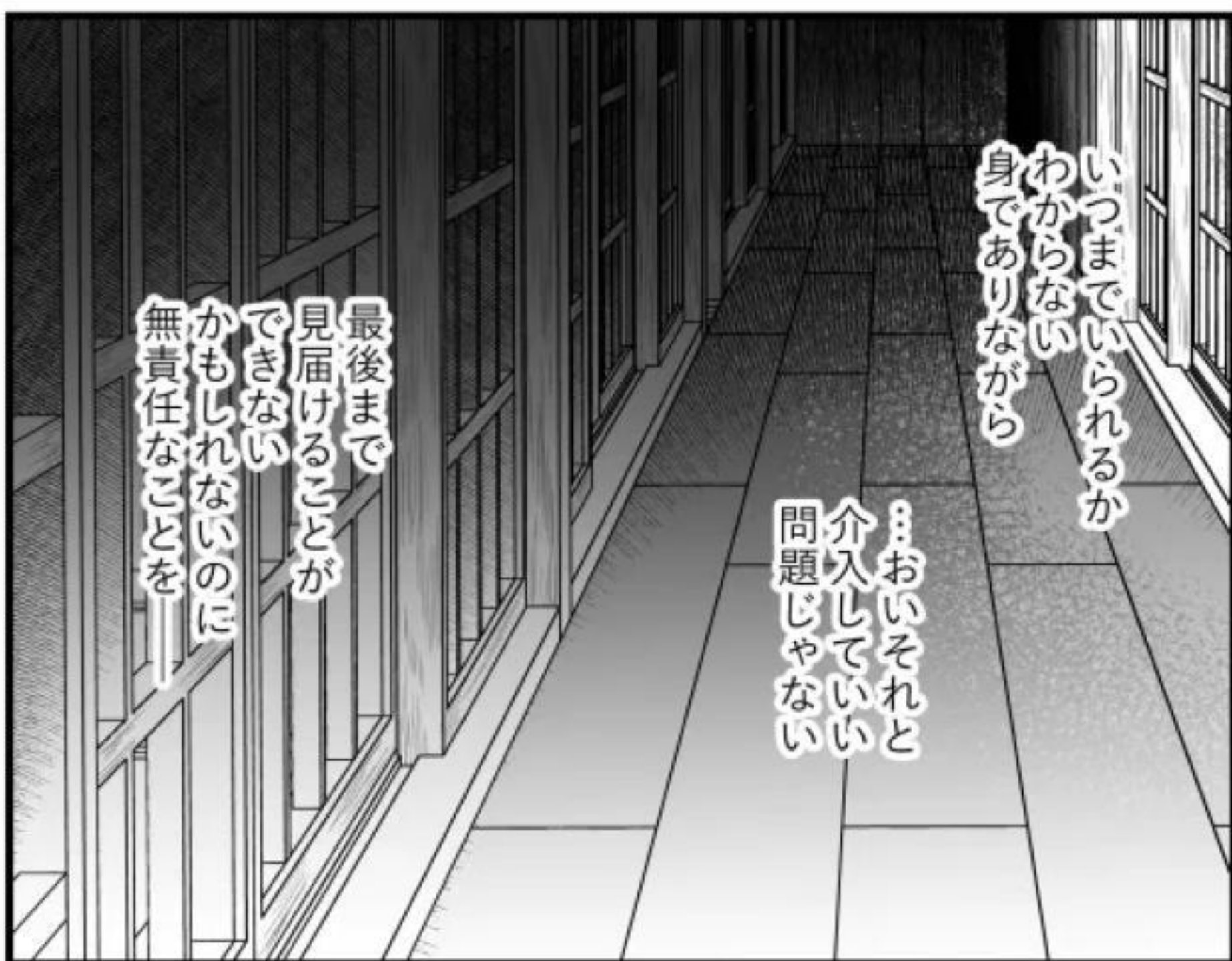
少しでも関係修復の
手助けをしたいけれど



身を切るような
寂しさを
湛えていたのか



ああ！
それと



いつまでいられるか
わからない
身でありながら

…おいそれと
介入していい
問題じゃない

最後まで
見届けることが
できない
かもしれないのに
無責任なことを







あれから二週間

日々平穏
あっという間に
時は過ぎていく



術が解ける
気配も兆候ない

日中遠出をして
鬼の匂いを
探すけれど
見つけれられず

俺はここで
待つばかり

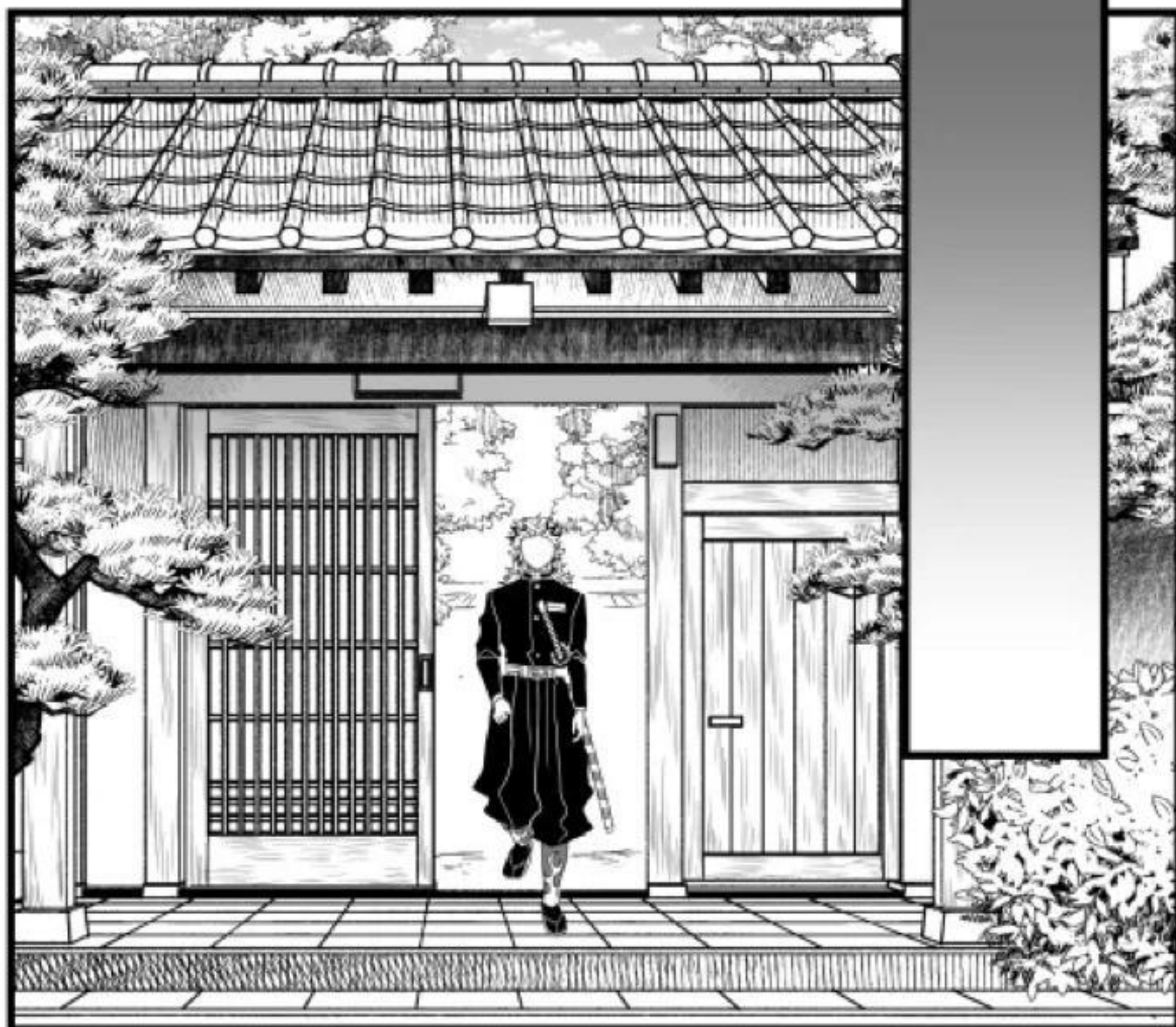


本当にこのまま
何もせず
生活していれば
戻れるんだろうか…

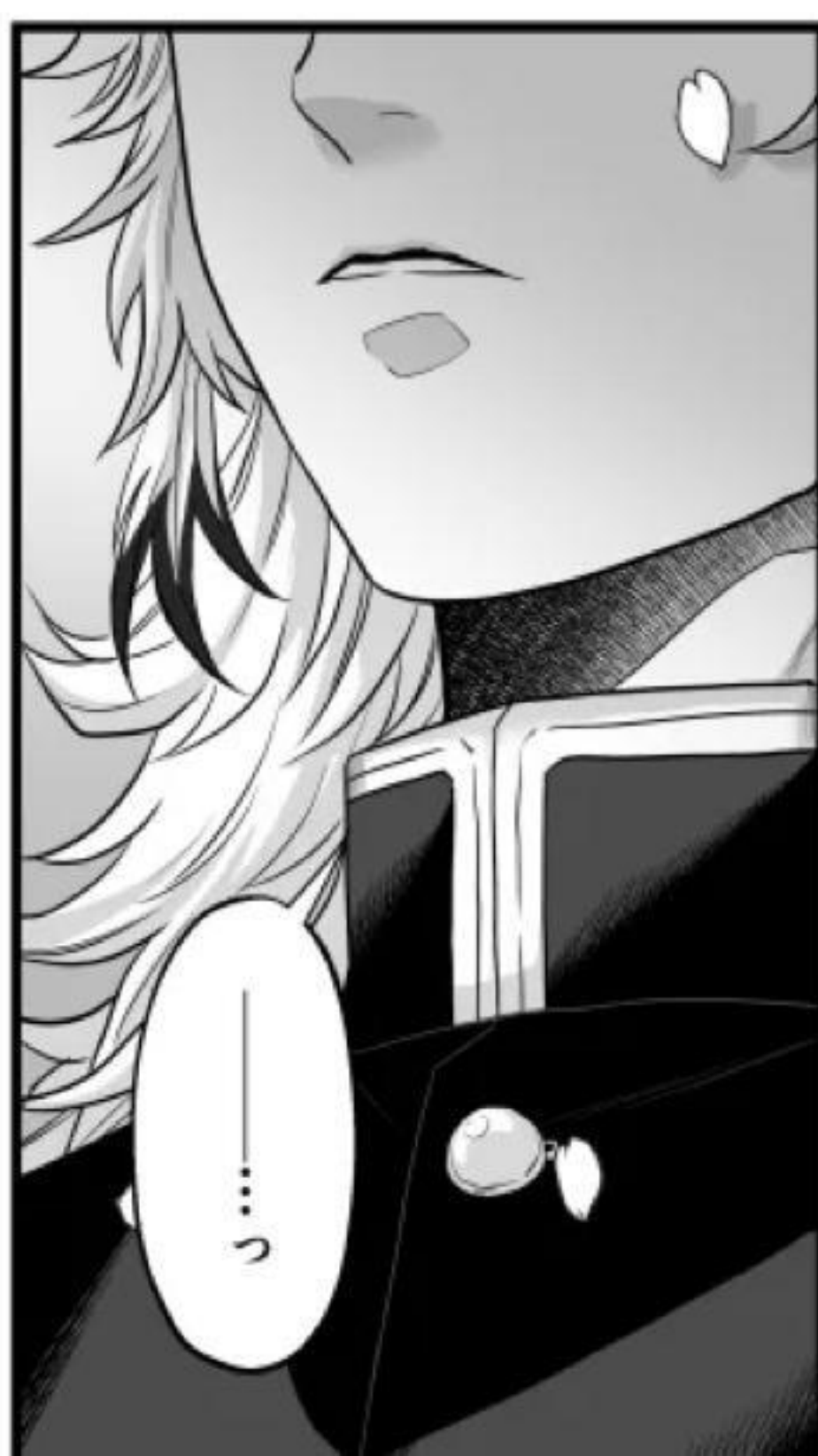
…禰豆子…

俺がいない間
大丈夫かな…











寒くなっても
ずっと
見ていたいよ

こんなに
きれいなのに
枯れちゃうの？

この桜
来年の春まで
もう見られないの？







…俺には今
あなたたちに何もして
あげられないけれど…

…せめて
願いを込めます

いつか来る
春のために



いつでも春の桜を
見られる押し花は

妹弟の楽しみ
だったんです



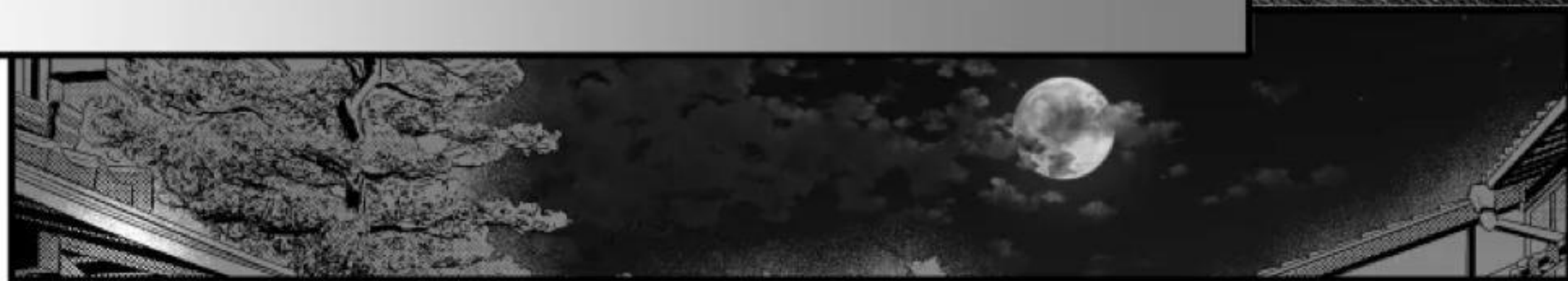
大切な人と

この美しい桜を
また一緒に
見られますように



…うん







待たせてしまつて
すまなかつたな

覇氣のない
小さな声

いつもの
彼らしくない…

すぐに休むから
君も部屋に
戻ってくれて
構わない

苦しい
匂いがする

…任務で何か
あつたんだろうか

辛くとも
心配かけまいと
気丈に振る舞う
いじらしさ…

…炭治郎？

きっと甘えることを
知らないんだ



過去に関わるのは
よくないって
わかってる



…でもせめて
今だけ――

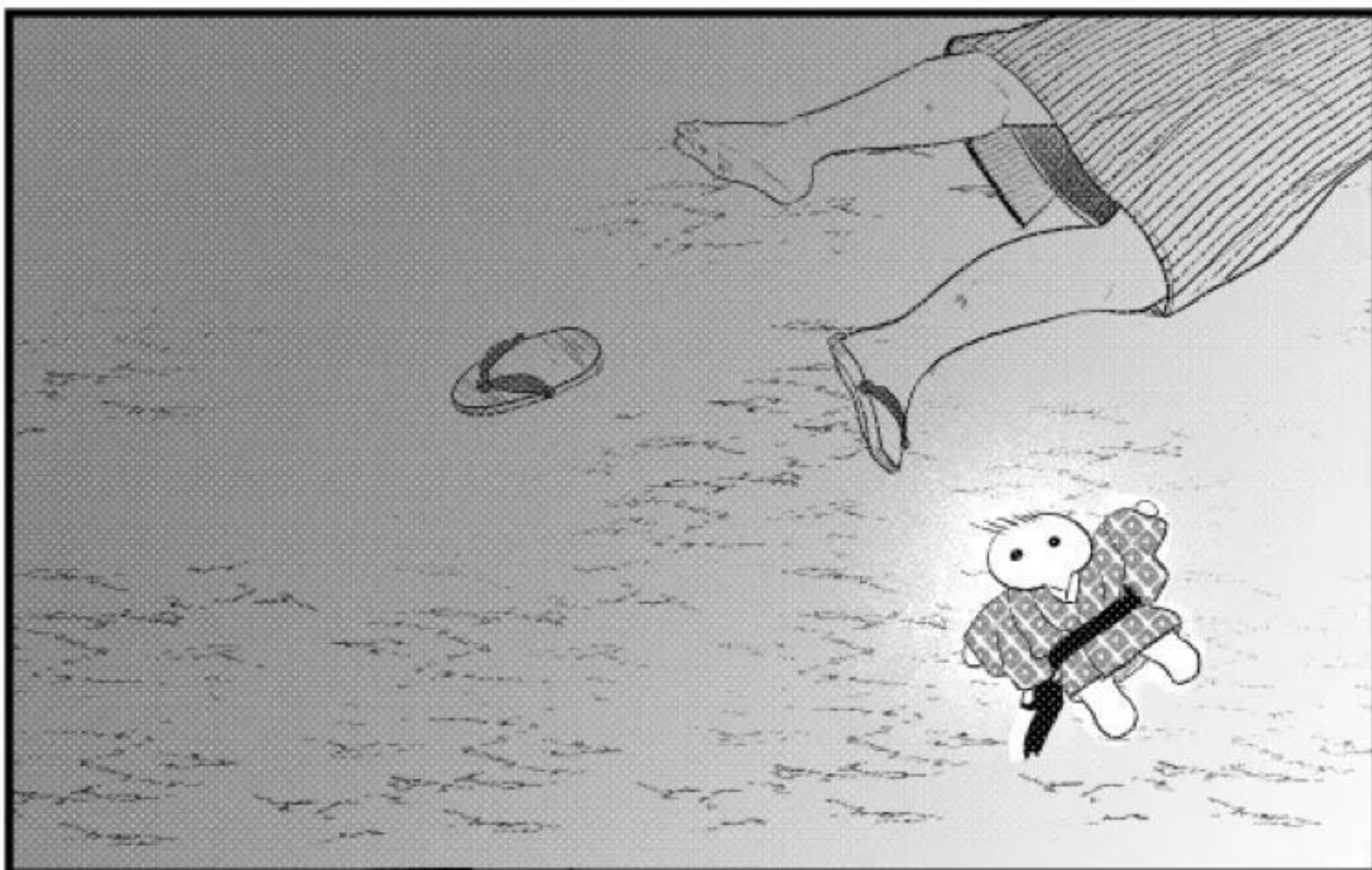
目の前で苦しむ彼を
放ってはおけない

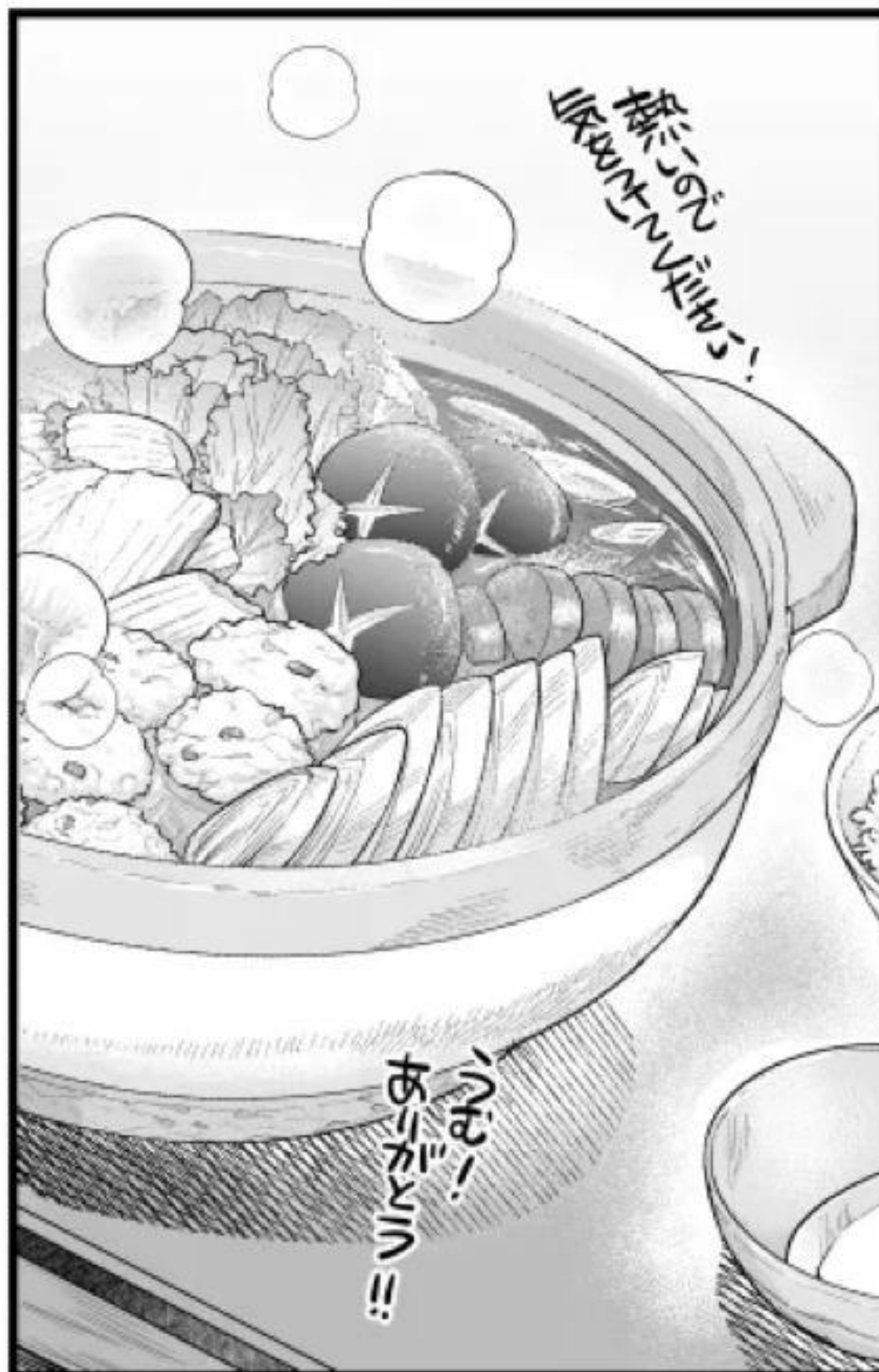




杏寿郎さん

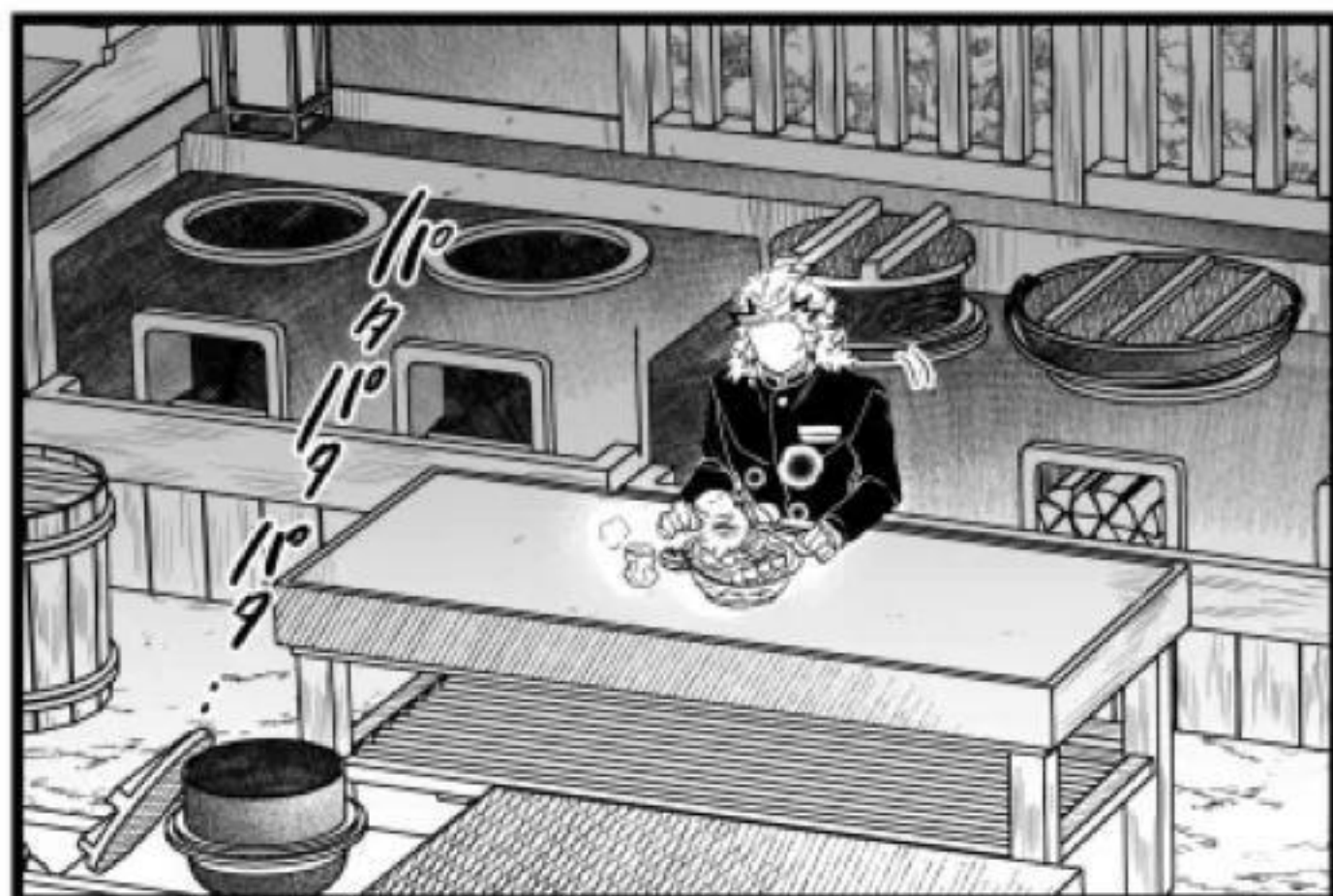
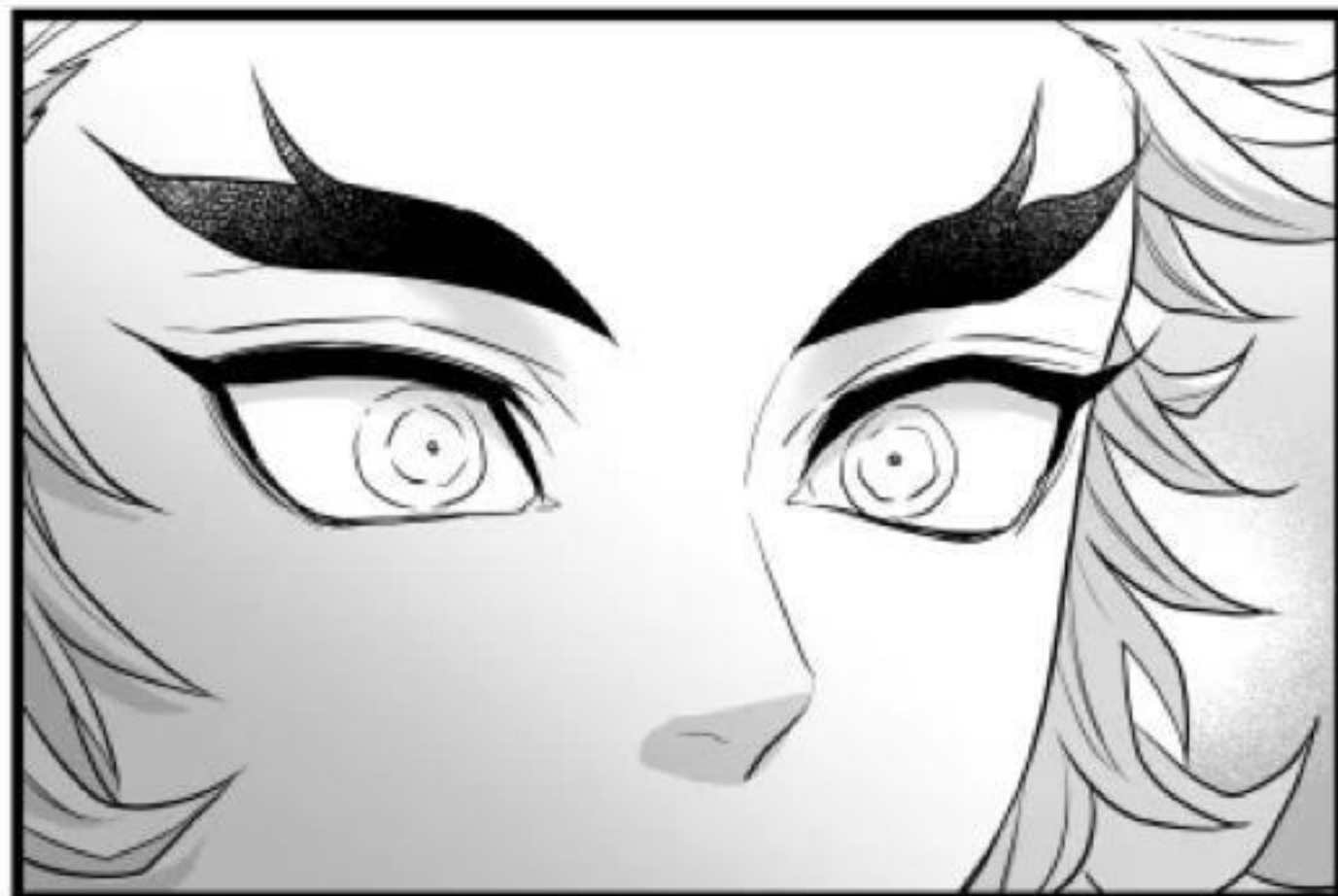


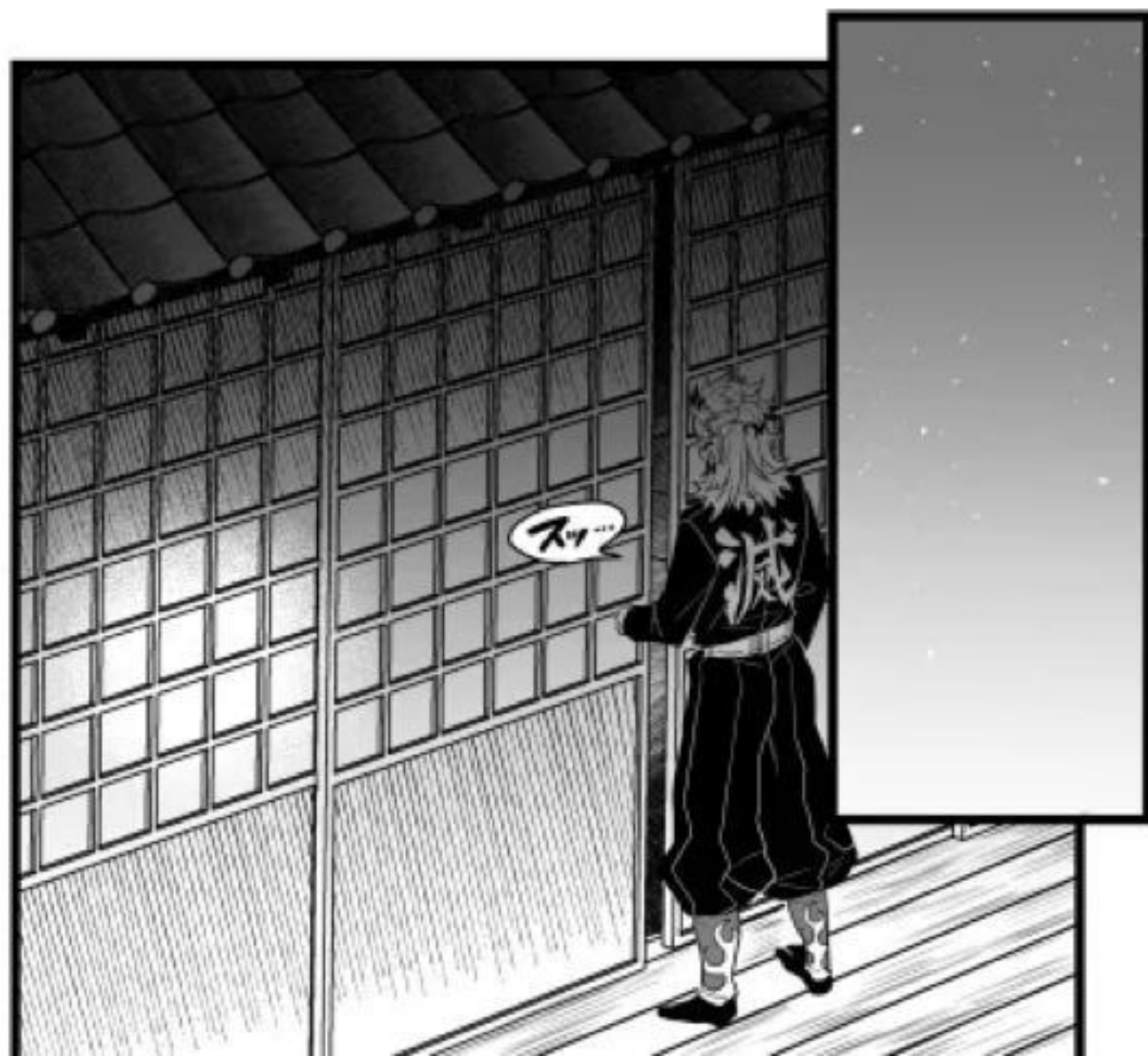


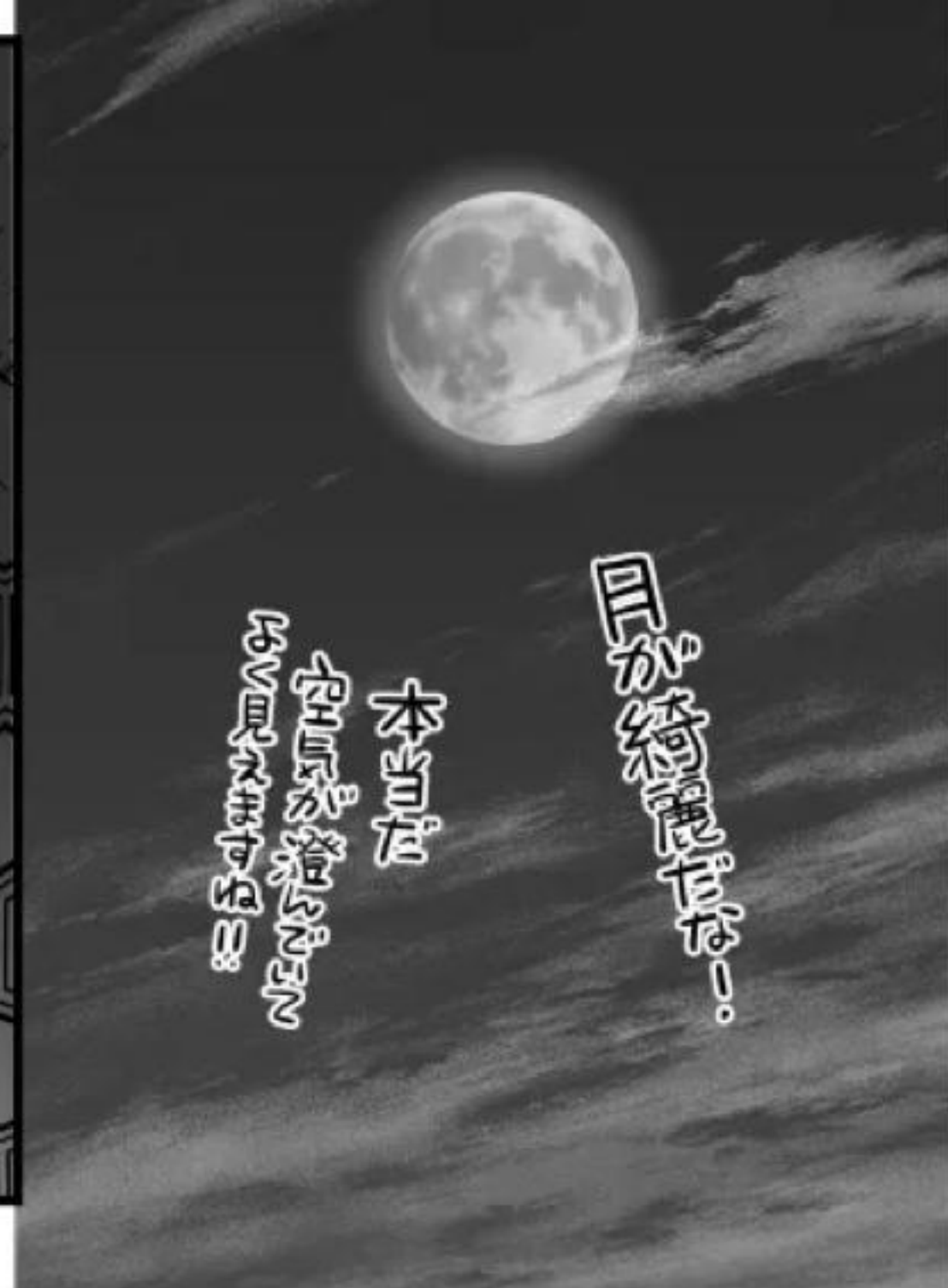














…君が俺のところに
来てくれてよかった

毎日飽きる
ことがない

こんなに
年相応に
笑えるんだ！



ふふ

子守唄の威力は
絶大だな！

俺まで
眠くなってきて
しまった

どこか遠観して
大人びていると
思っていたけれど



明日は休みだから
鍛錬強化の時間に
当てようと思う！

一緒にやろう！

はいっ！

お事始め
もういっしょにやります
ふふふふふふ
ふふふふふふ



すて！！

すて！！

すて！！



……つく

ギチギチ

…なんて
早くて重い



俺が見立てたところ
君の太刀筋は
隙を線でとらえ
一撃必殺で首を狙う
というものだ

目的としては
間違っていないが

一撃で正面から
首を切ろうとすれば
力を込めるために
大きく振りかぶり

その際ガラ空き
になりがちな脇や腹に
攻撃を受けやすい



ゆえになるべく
小さな振り込みで
刀に力を
伝えられるよう

まずは
上腕の筋肉強化

その際
踏ん張るための
足の筋力強化が
課題だろうな



…こんな短時間で
的確な弱点への
指導まで…

……っはい



…俺はまだまだ
弱いことを
知らしめられる…







しまった……

急に足の集中を
解いたから――

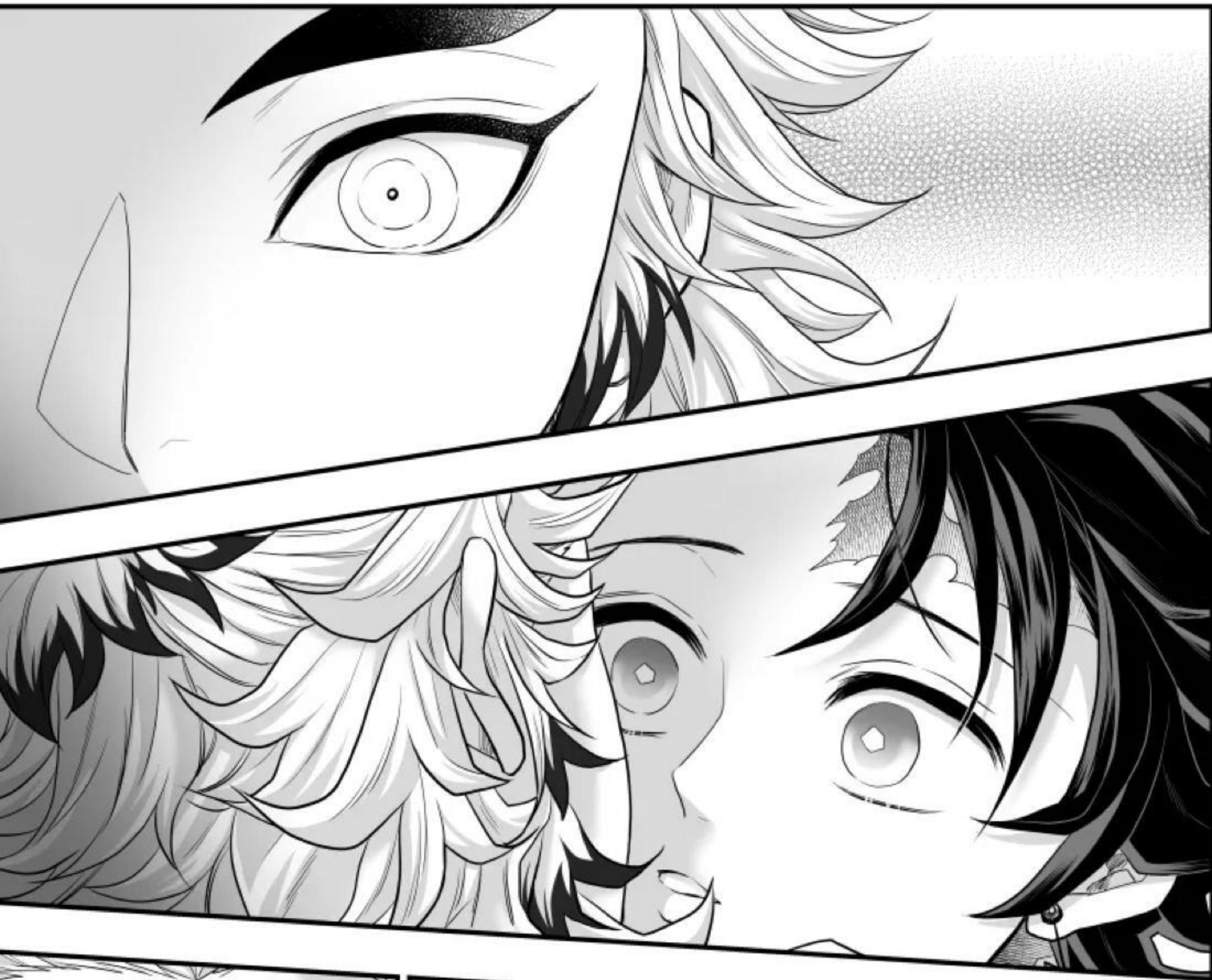


大丈夫か

あっ……

すみませ――







近頃この^{あか}赫を見ると
胸がざわついて…



綺麗な色だ…

^{かがりび}篝火のように
静かに燃える炎



これが
何なのか…
君は知って
いるだろうか…



首を撫でられる
ような…

腹の奥が
熱くなるような

言いようのない
感情が湧き
上がってくる



…思うがまま
触れたら――

分かる
かもしれない

炎の瞳に
魅入られて



ふにふに

動けなくなる――

…もっと深くまで
覗いたら――





二人ともお顔が
赤おございますが
大丈夫ですか？



あ...



ぼっちゃま方
お茶が
入りましたよ

はっ!!!



今日は暑う
ございますからね
水分をたくさん
取られてくださいまし

は...はいっ

気遣い
ありがとう！











杏里郎は36歳で、
金髪、身長165cm、
体重65kg、
髪型はロングヘア、
瞳の色は青、
好きな食べ物は、
甘いもの、
嫌いな食べ物は、
辛いもの、
趣味は、
読書、
特技は、
剣道、
好きな言葉は、
「努力は必ず報われる」



…俺の健啖家ぶりを
嫌悪するものは多いが

君はそう言って
くれるのだな…

嫌悪!?



…君が

…君が戻って
しまったら

この肥えた舌を
どうしたら
いいものか



ずっと
ここにいて

俺を甘やかした
責任を取って
欲しいものだ…













あーい

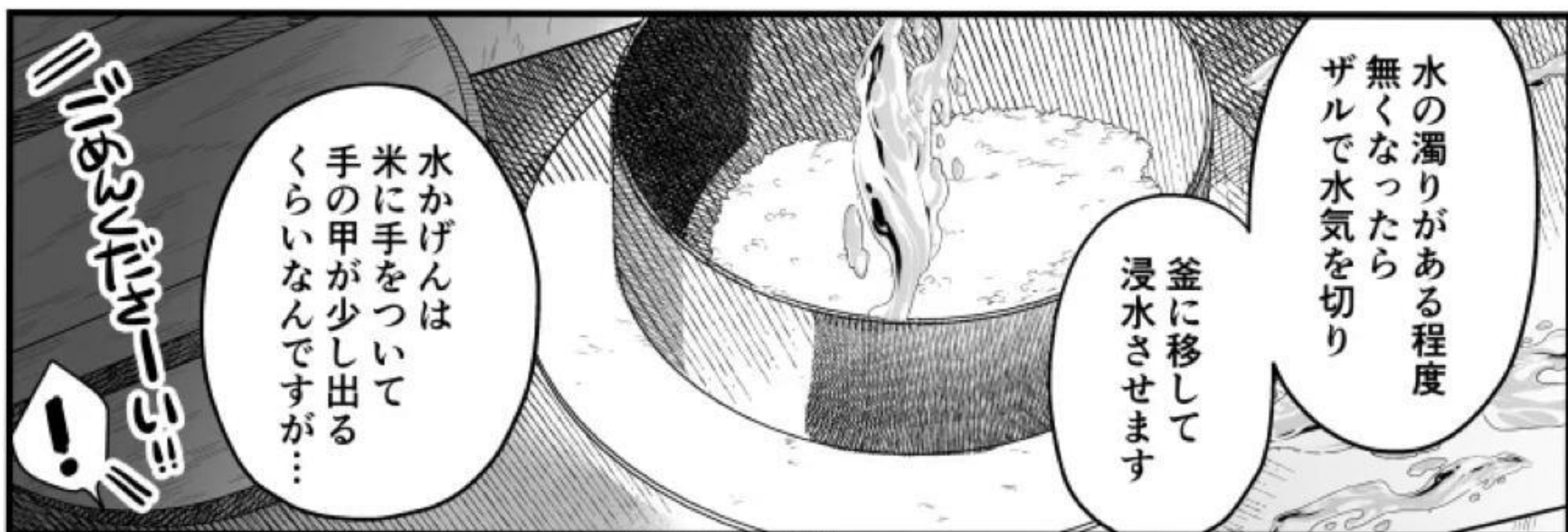
これだと力が強すぎて
米が割れてしまいます
あかこ
赤子の髪はの毛と
決つての優しさで



まずは
米を研ぎます

それだったら
知っている！

こうだろう！
ふん！ふん！

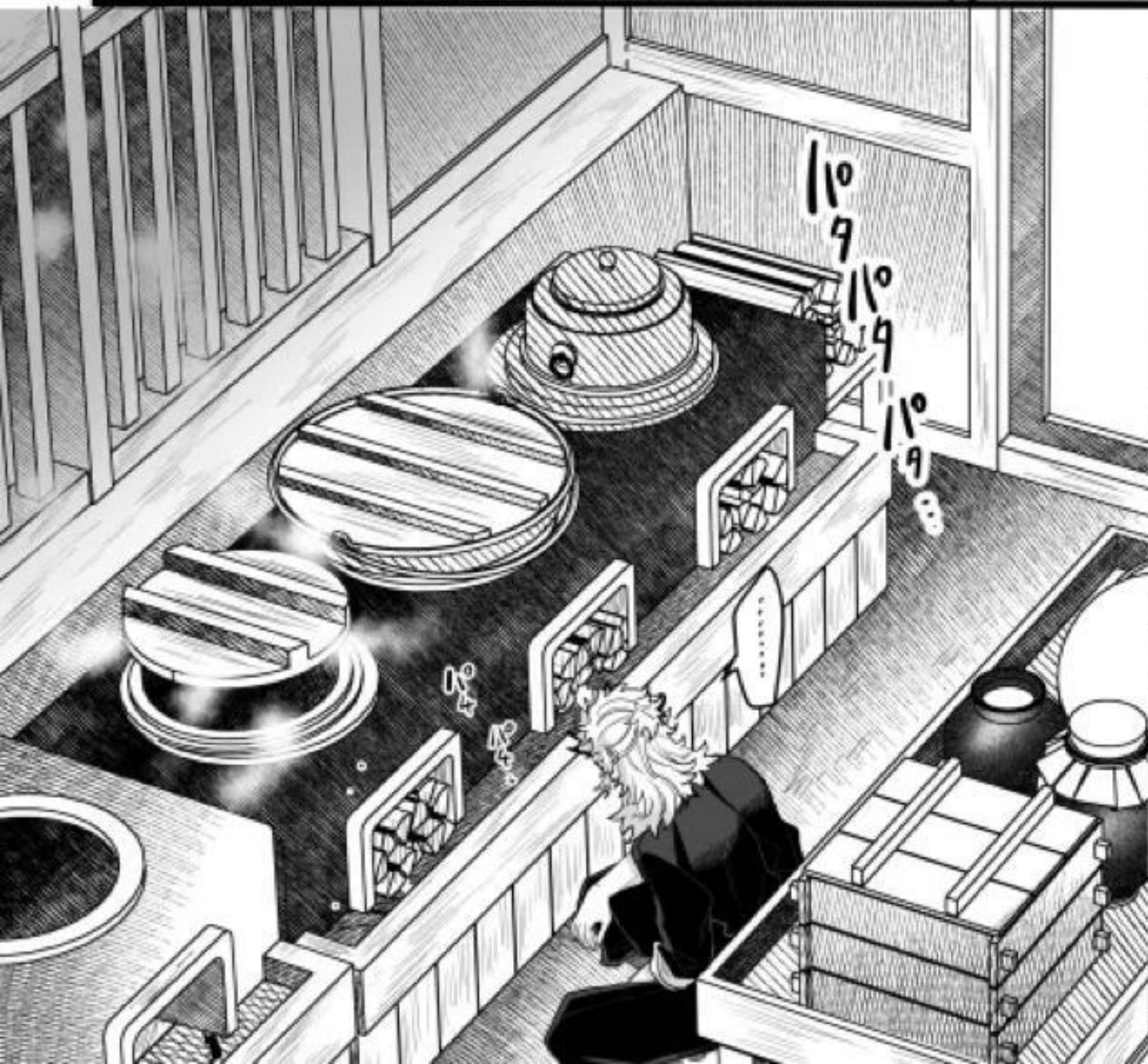


水の濁りがある程度
無くなったら
ザルで水気を切り

釜に移して
浸水させます

水かげんは
米に手をついて
手の甲が少し出る
くらいなんですが…

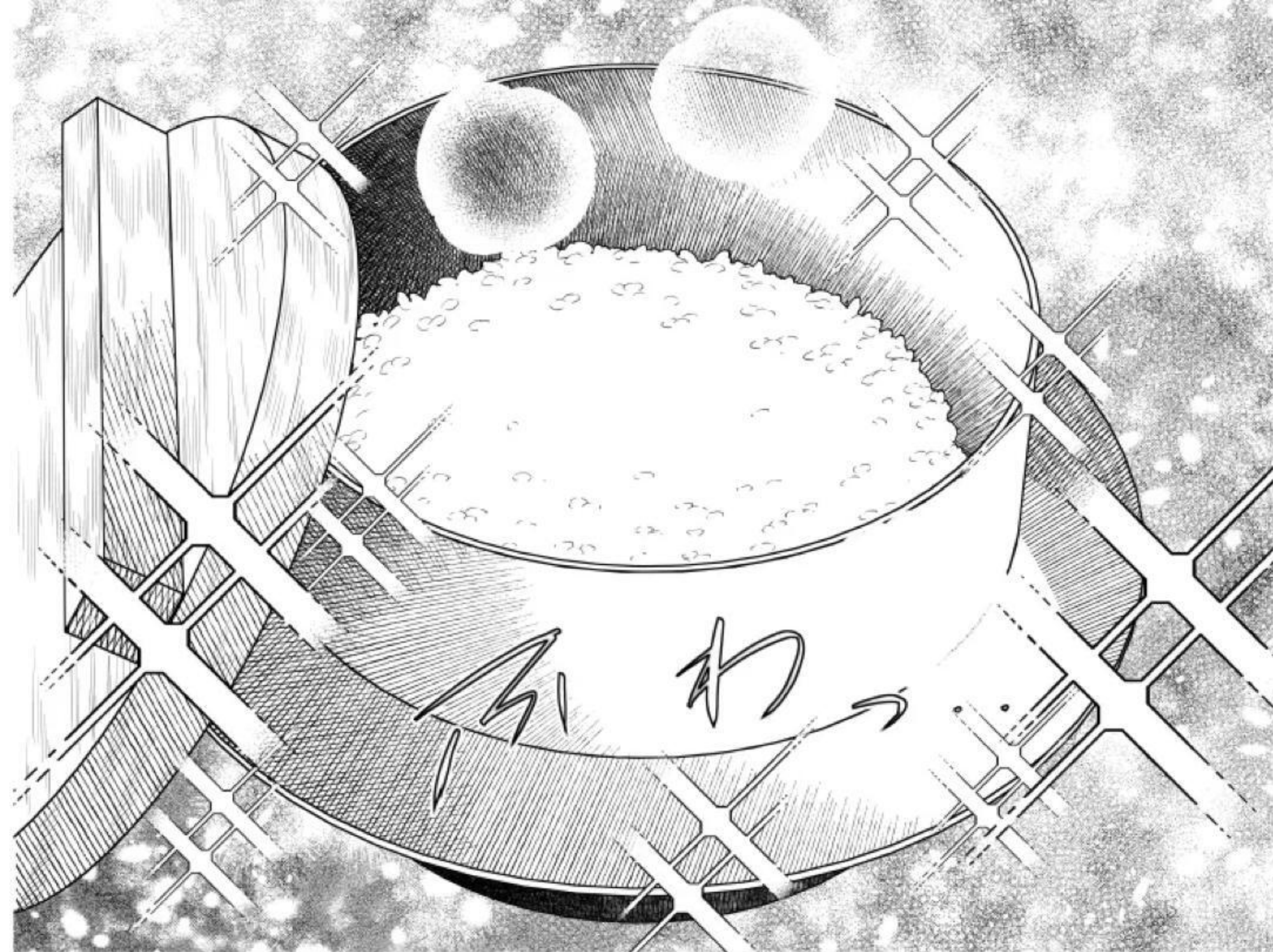
あーい



ちょっと
行つてきます！
無理ないでください











こうして
手を出すことで
未来を変えてしまう
かもしれない



これ……

俺は
おせっかいな
人間で



二人を見届けられない
であろうことは

やはり無責任
かもしれないけれど



差し出がましいかと
思っただんですが……

どうしても
放っておけない

優しい彼が
苦じむのを

お父さんに
持って行って
みませんか



少しでも
距離が近づいて

彼の心が軽く
なるので
あるならば

彼の背中を
押してあげたい——



出ていけ！

お前たちも俺を
馬鹿にしているんだろう！



杏寿郎さんが
心を込めて炊いた
ご飯を食べて

元気になります
ようにって
願いを込めて



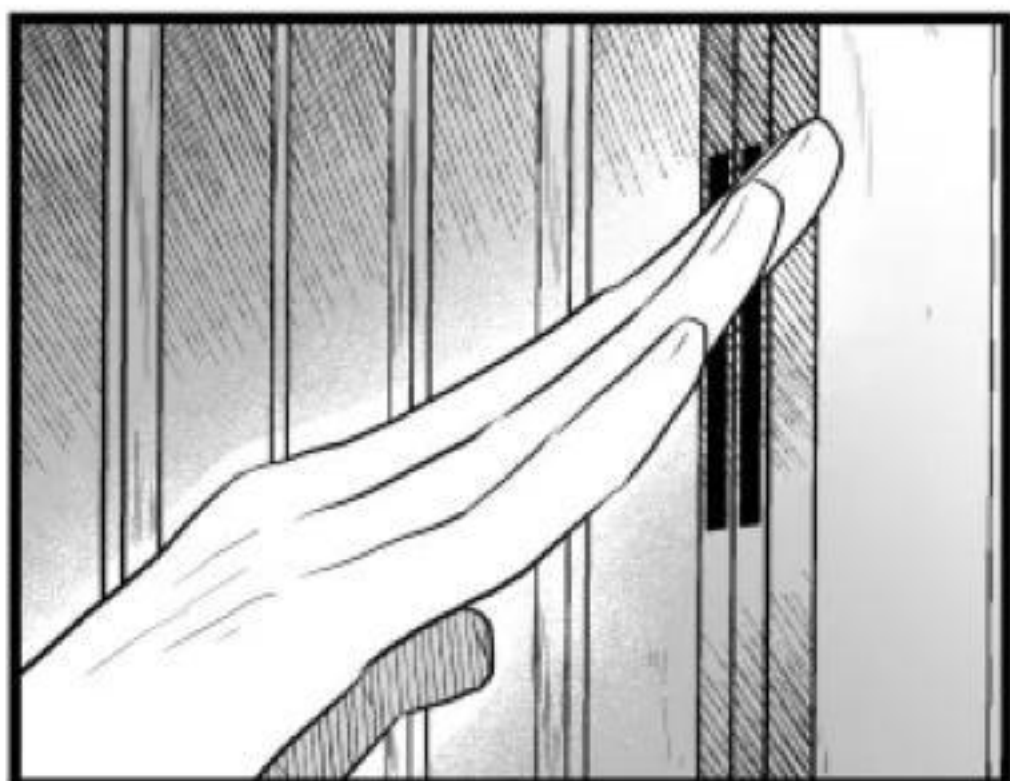
うるさい黙れ！



……君がそう……

望むのなら――

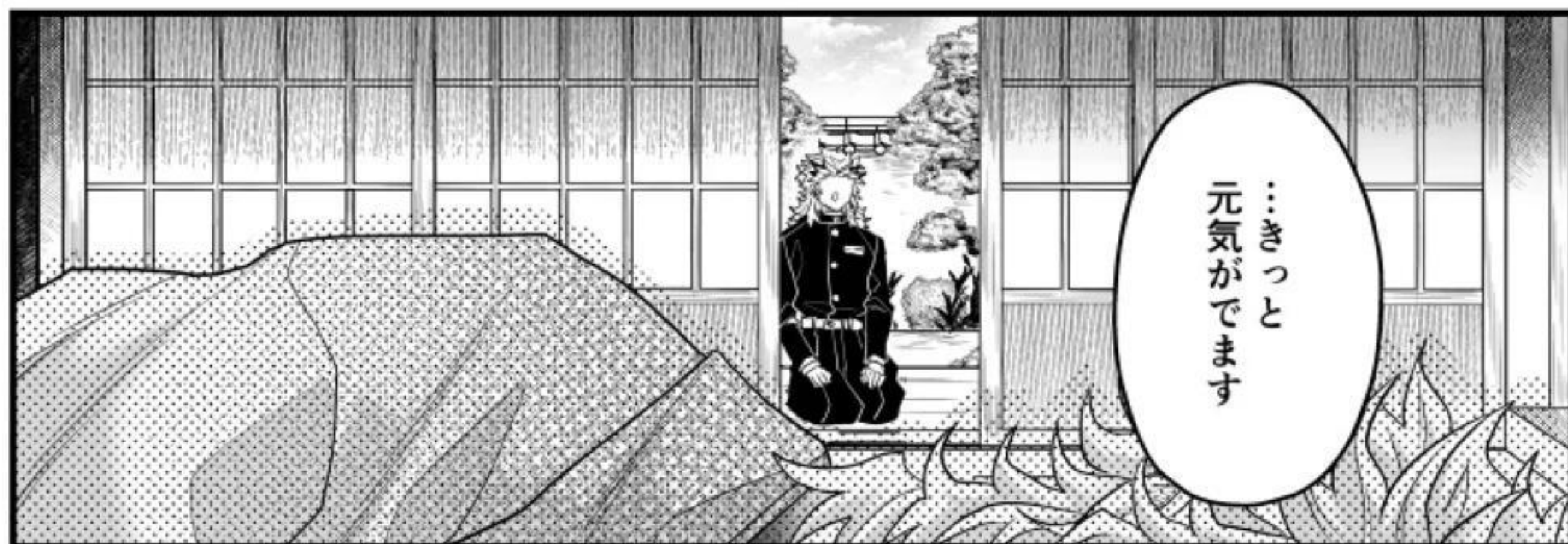




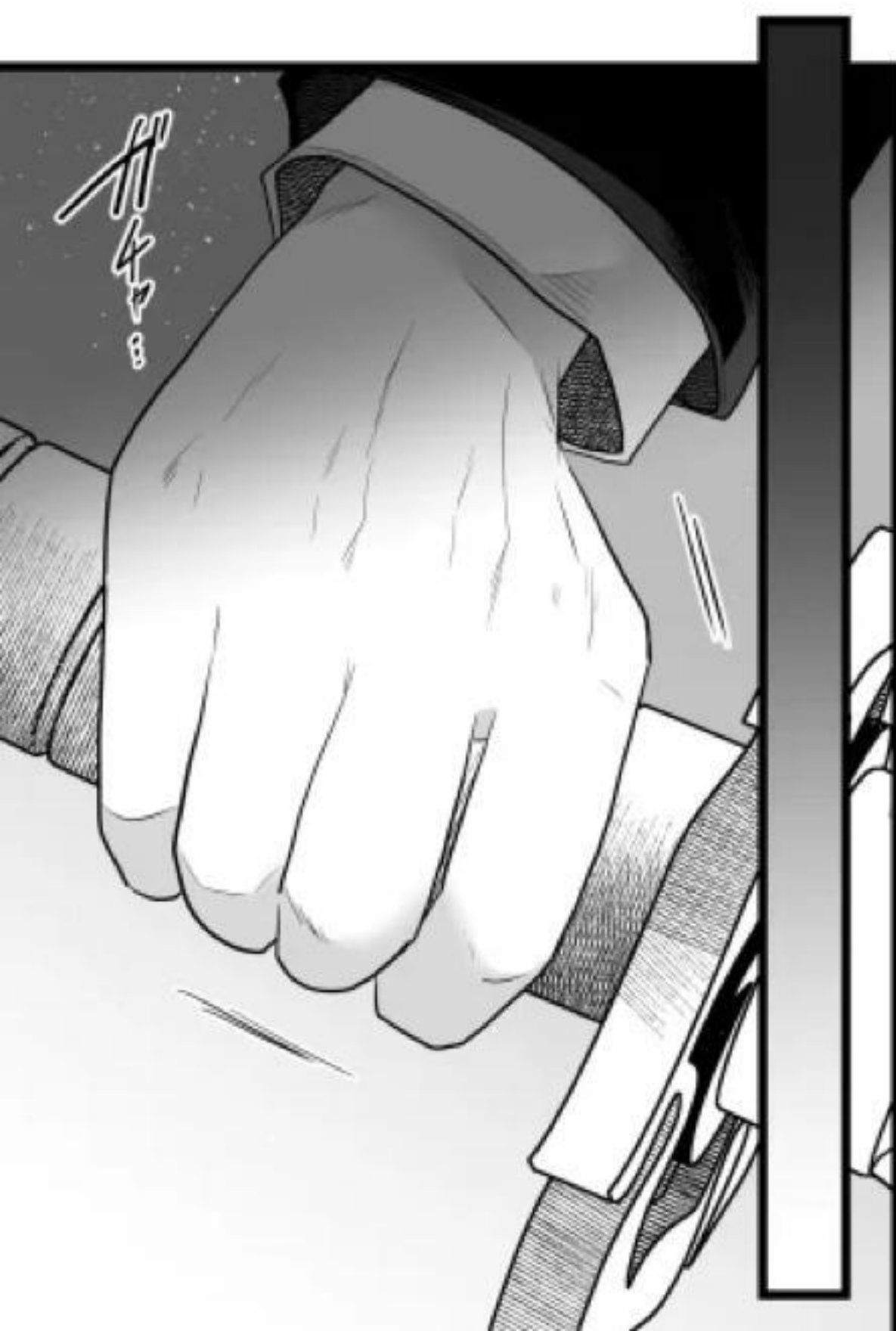
父上



失礼いたします









あの時の父上は
もうどこにもいないのだ



やはり
無駄なことだったか



考えても
仕方がないことは
考えるな

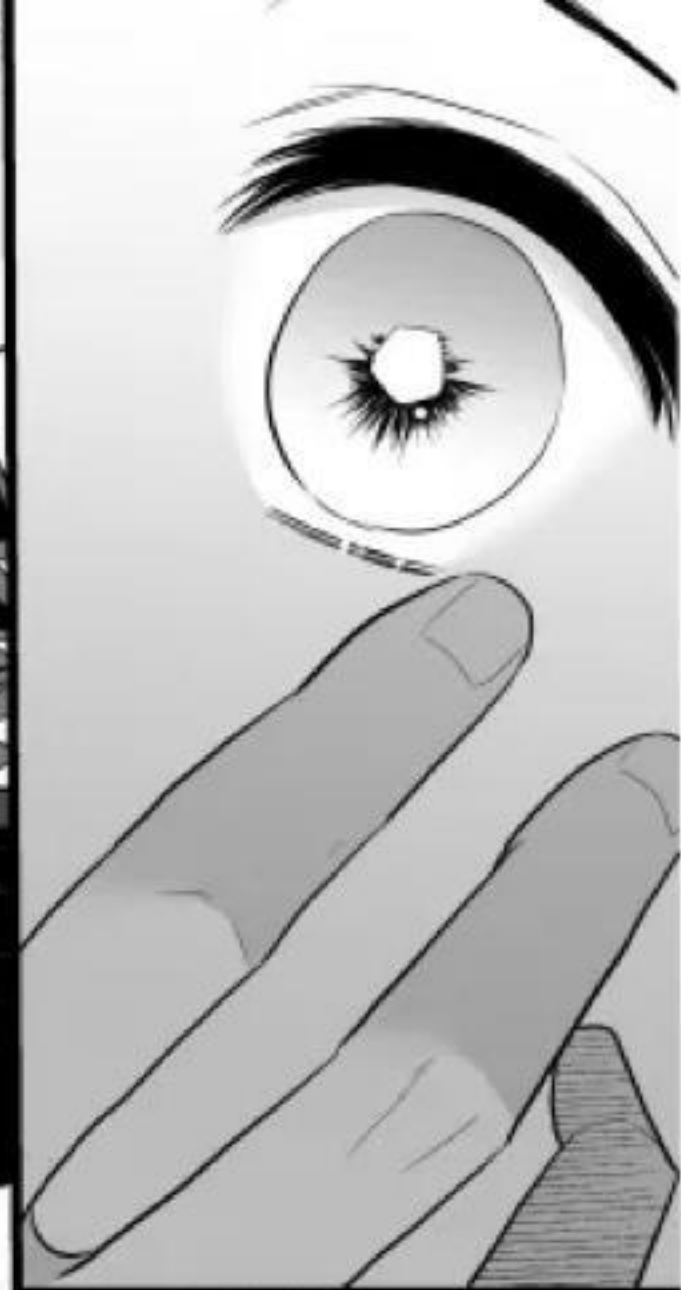
期待する限り
自分の心を
擦り減らすだけ

目を閉じて
やるべき責務に
集中しろ









食べてくださった！

父上が！



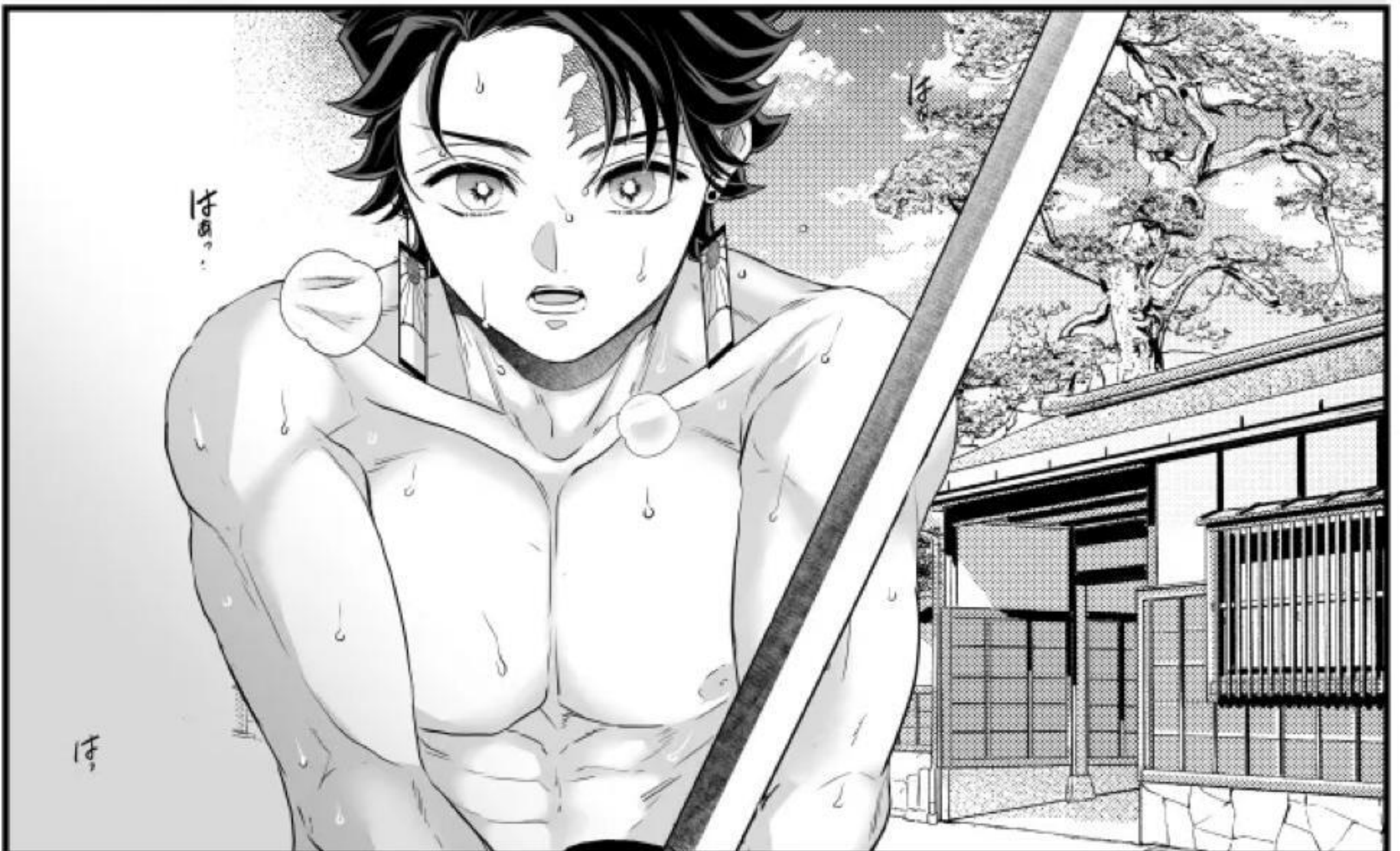


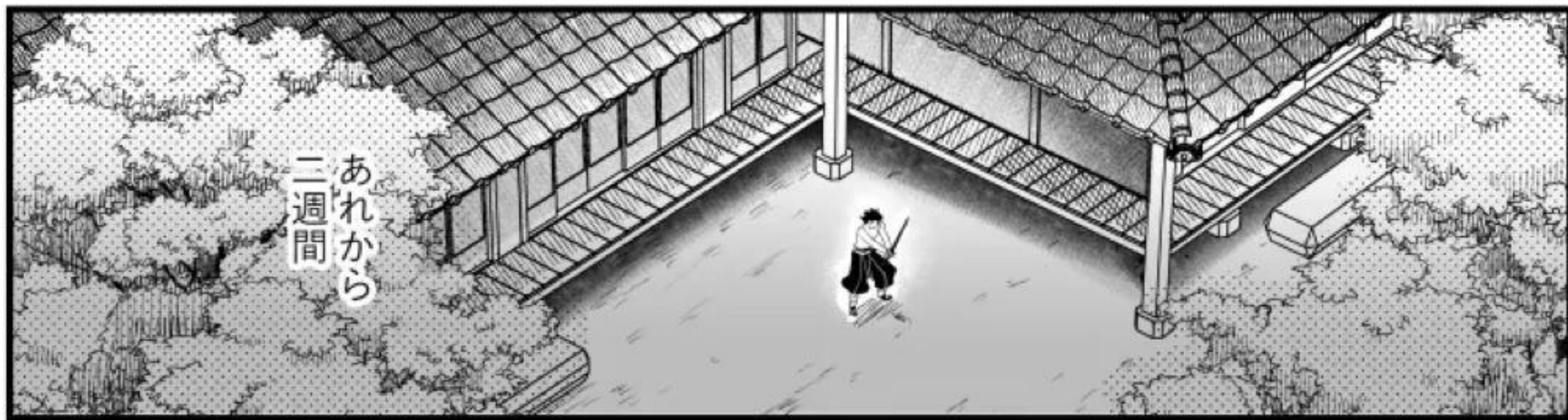




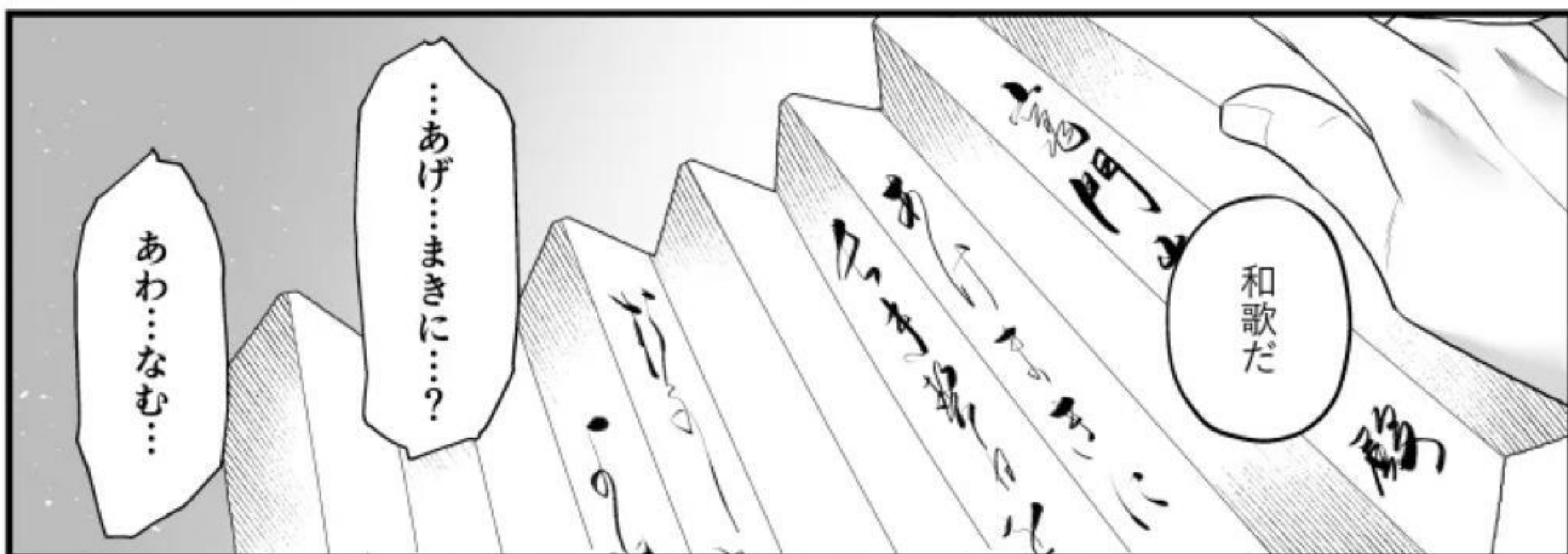
彼に二度目の

叶わぬ恋を
しているから











杏寿郎さん！

ぶかえりばさい!!
すみません!
勝手に文を

いいんだ
君へ渡すもの
だったのだから

…その歌は

縋^より結び固く解^{ほど}けぬ
総角^{かまき}結びのように



ずっと君に
伝えたかった



いつまでも
いつまでも
共にいたいと…

…そういう
意味の歌だ



竈門炭治郎殿

あなたを
お慕い申し上げる



どうか俺の
生涯の伴侶に
なって欲しい



……っ！

なぜ

俺なんかを

滅

たとえ
同じ気持ちでも

…そんなの
駄目です…

立派なあなたの
隣に並ぶのに
相応しくない

…そんなの…

…俺は男だし
何の取り柄も
ありません…

…きつと
兄弟に対するような
親愛と…

混同して—

何よりずっとそばに
いられないのに
彼の未来を
縛ることはできない

駄目なものか！

…君も憎からず
俺を想って
くれていると
自惚れている

しかし
その君が俺を
拒む理由は

いつ消えるとも
しれない
身ゆえだろうか

同性で俺が嫡男
だからと
いうのであれば

家督は千寿郎に
譲るつもりだから
杞憂でしかない



どうか
幼き者の憧憬や親愛と
捨て置かないで
聞いてほしい

.....
っ



俺は年若く
共に会って
間もないが

日がな死線を
超えてきた

何事においても
重大な決意や
判断は早い方だ



...いつだって
君の声が聞きたい...

笑顔が見たい

季節の変化や
美しい景色を

共に感じたい



忘れていた
桜の美しさ



共に見た
あの牙え牙えと
美しい月

優しい子守唄を
何度だって
聴きたい



抱き締められた時の
力強い鼓動に
生きていると感じた

心地よい
体温の高さに
ずっと触れて
いたいと思った



…君の暖かさは
寂しい俺の心の琴線に
優しく触れてくれる

必要なぬくもりを
惜しげなく
分け与えてくれる

人を欲しいと思う
初めての感情に
戸惑いながらも

君をもっと
知りたいと
思うようになった

：好きな色は
何だろう？
好きな言葉は？

思い出すのはいつも
君の瞳の色ばかり

叶わぬ恋だと
手離そうと
思えば思うほど…

君のことで
頭がいっぱいだ

この気持ち
恋い慕うという
想いでないのならば

俺はこの先
恋することは
無いだろう

人を愛する喜びを
知らないだろう



…分かっていたんだ

伝えてしまえば
優しい君を
困らせてしまうと

だから手紙に
心を写して封をする
つもりだった



…でもこんなに
胸を熱くする



激しくも
暖かい感情を
無いことに
なんてできない



…唯一の想いを
偽るなんて

できない――



…炭治郎

叶うはずがないと
心の奥底に
隠した恋心



俺の心は
君を指して
違えない

だからどうか



これから先
たとえ離れ離れても

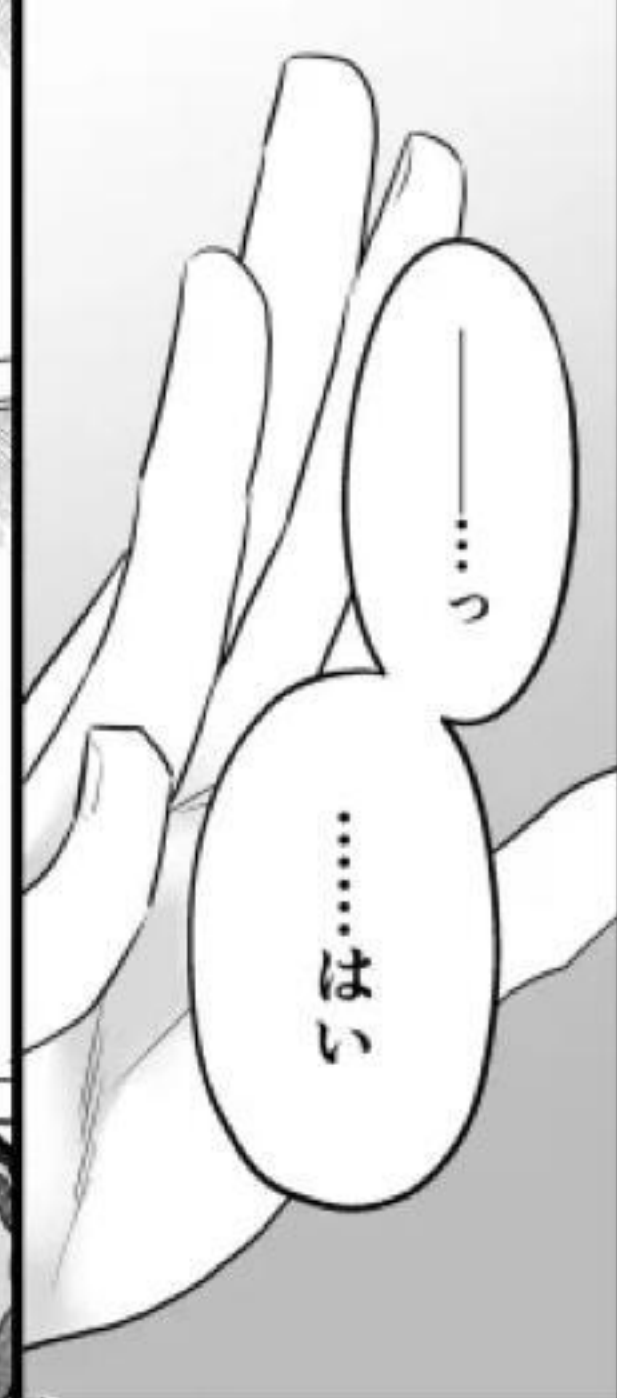
あなたの真心に
触れて

いつまで経っても
君が好きだ



俺と共に
生きてくれ

溢れてしまう



……っ

……はい



俺もずっと……

ずっと先の
未来から

あなたが
好きです……



……そして今の
あなたを知って

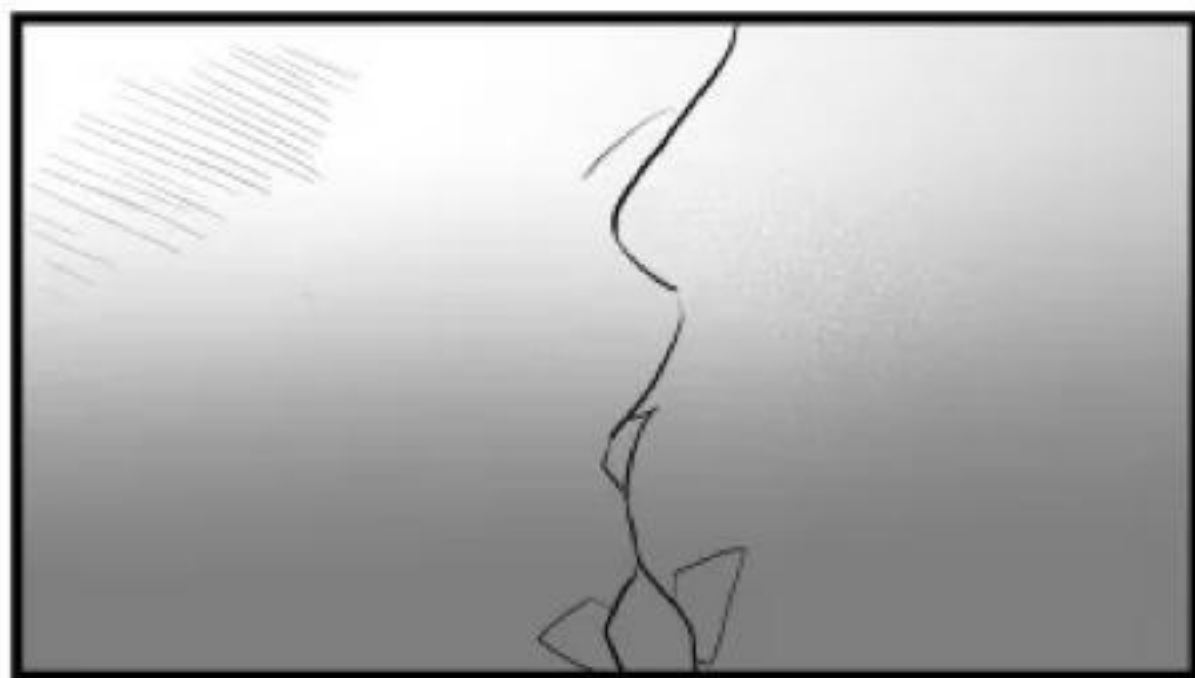
もっともっと
苦しいくらいに……



この想いを
手離せないくらいに——



……ありがとう







鬼殺に身を置く
我が身ゆえだろうか…

自分でも
せつがち
だと思いが



人の欲望には
際限がないな…



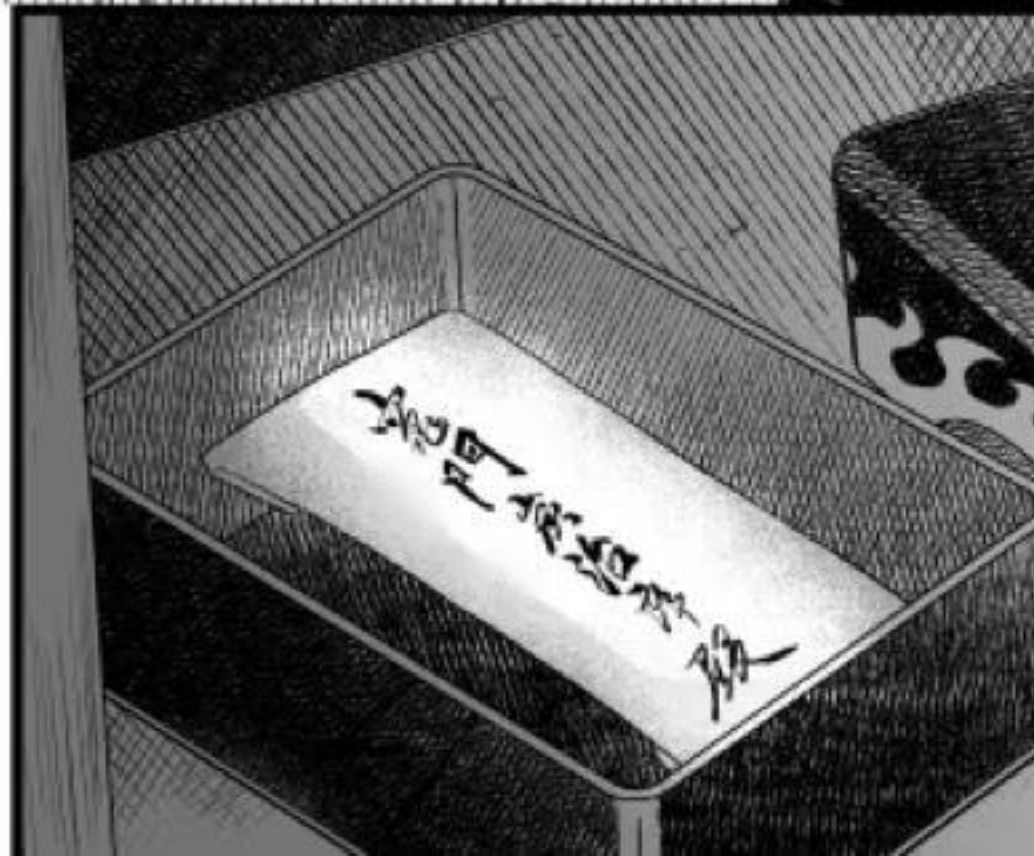
……君に触れたい

もっと――

……いいだろうか…



……







…もどかしいな…

はあ

はー

すん

……っ！

……っ大き……

……っ

…わざと煽って
いるのなら
質が悪い…



……なにせ君は
俺より年功だ…

…他の者に
魔羅を使った経験が
あるのかもしれない
さあ 君のも見せてくれ

……っそんな

……俺は…











その夜

君の杞憂が
離れてしまうことに
あるのならば





何度も口づけて

お互いの体温が
馴染むまで

決して離れないように
ぴったりと

少し苦しいくらいに
身を寄せ合って

まるで

その時が来るのを

分かっていた
みたいに







この傷を受けた
雨の日の任務で
大切なものを
失ったから――

……偶然？

それが今日とは
限らない

似たような
任務も地形も
ましてや雨の日なんて
いくらでもある

……でも

杏寿郎さんの部隊で
たくさんの命が奪われて

その大切な仲間を
失ったことを
言っていたんだとしたら

炭治郎さん？

サアア







：どうする

この圧倒的
不利な状況下

後方には部下が
五名中傷・重症
手当に二刻を争う

要に丙以上隊士と
医療班の援軍伝達に
行かせてから二刻

間もなく
到着するだろう



：何より鬼が約束を
守ることは無い

つまりここで
一番最善の策は――

グニッ



煉獄さんっ！

俺を食べさせる間
援護を待つ
時間稼ぎであればいい

物わりの
いい奴は好きだ

上官として
部下を守る
賢明な判断だのお…

そして自己犠牲の
崇高な精神
実に素晴らしい！

そんな人間は
決まって
極上の味！

せめて

良く味わって
糧にしてやろう！

煉獄さんっ！





ヒノカミ神楽

にちうん
日暈の龍

かぶらま
頭舞い



なっ……っ!?





炎の呼吸

伍ノ型



炎虎!!!



…炭治郎





全集中!

杏寿郎さん!







炭治郎!!



俺は
守れたらうか

あなたの
大切なものを

別れの言葉を交わさず
離れてしまうことが
悔やまれるけれど

あなたに出会い
共に過ごした日々は

俺の人生の
何物にも代えがたい
宝物となった

もし…

…死の瀬に
最後の願いが
許されるならば

…一つだけ

祈らせてほしい

どうかあなたの

心寂しく
震える夜が

決して
ありませんように――







……っ

……俺は……

……死なずに……

戻ってきたのか――

怪我はないようだが
意識が混濁しているな

君は先程の任務で
俺を庇い血鬼術を受けて
目の前から姿を消したが

ほんの少し先の崖下で
意識を失っているのを
見つけ――

……それとも

……杏寿郎さん……

長い夢を見て
いたんだろうか







……言っただろう

俺は料理は
からきしだが

米だけは炊けると



なんせあの時
炭焼き小屋の長男に

米炊きの特訓を
受けたのだから

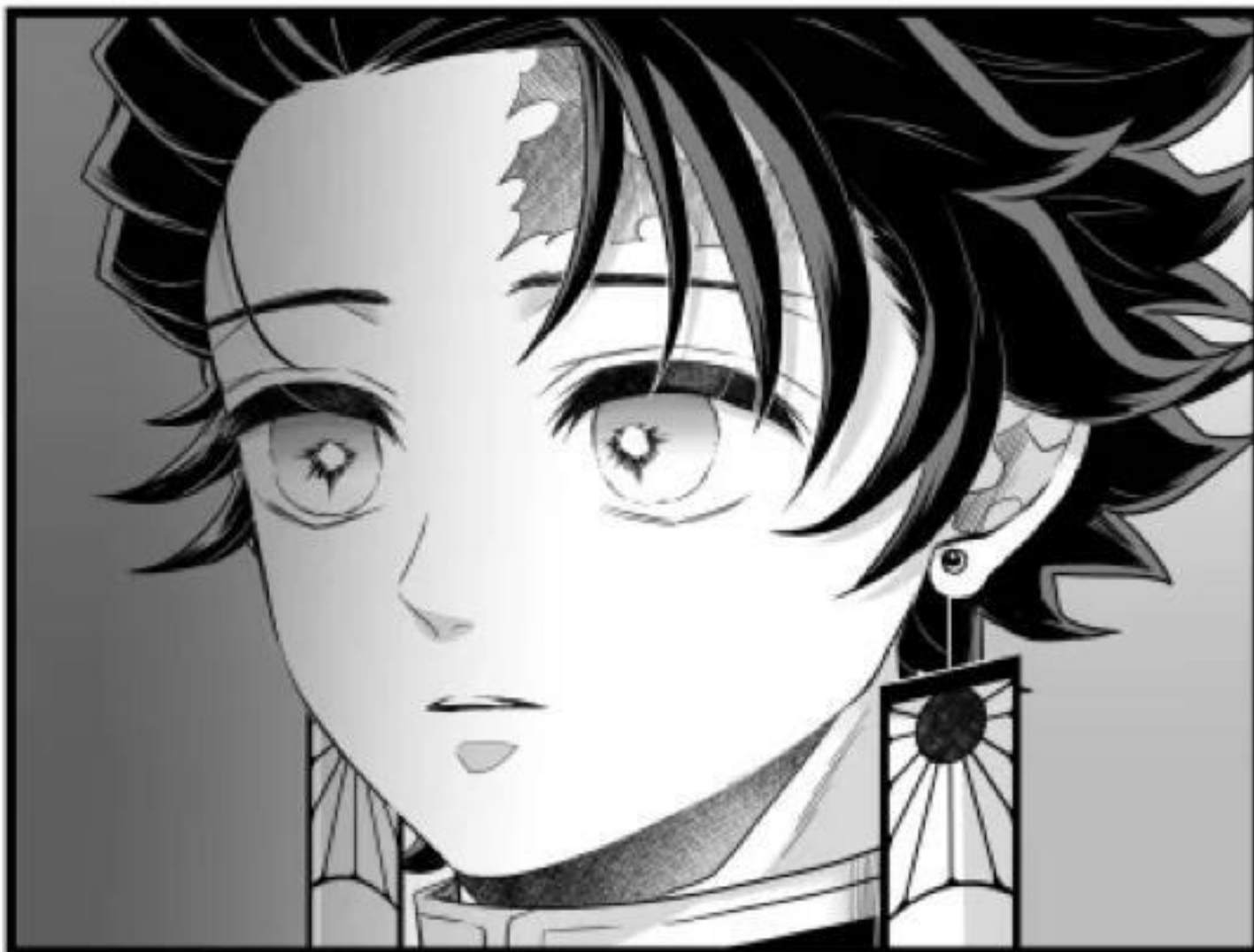


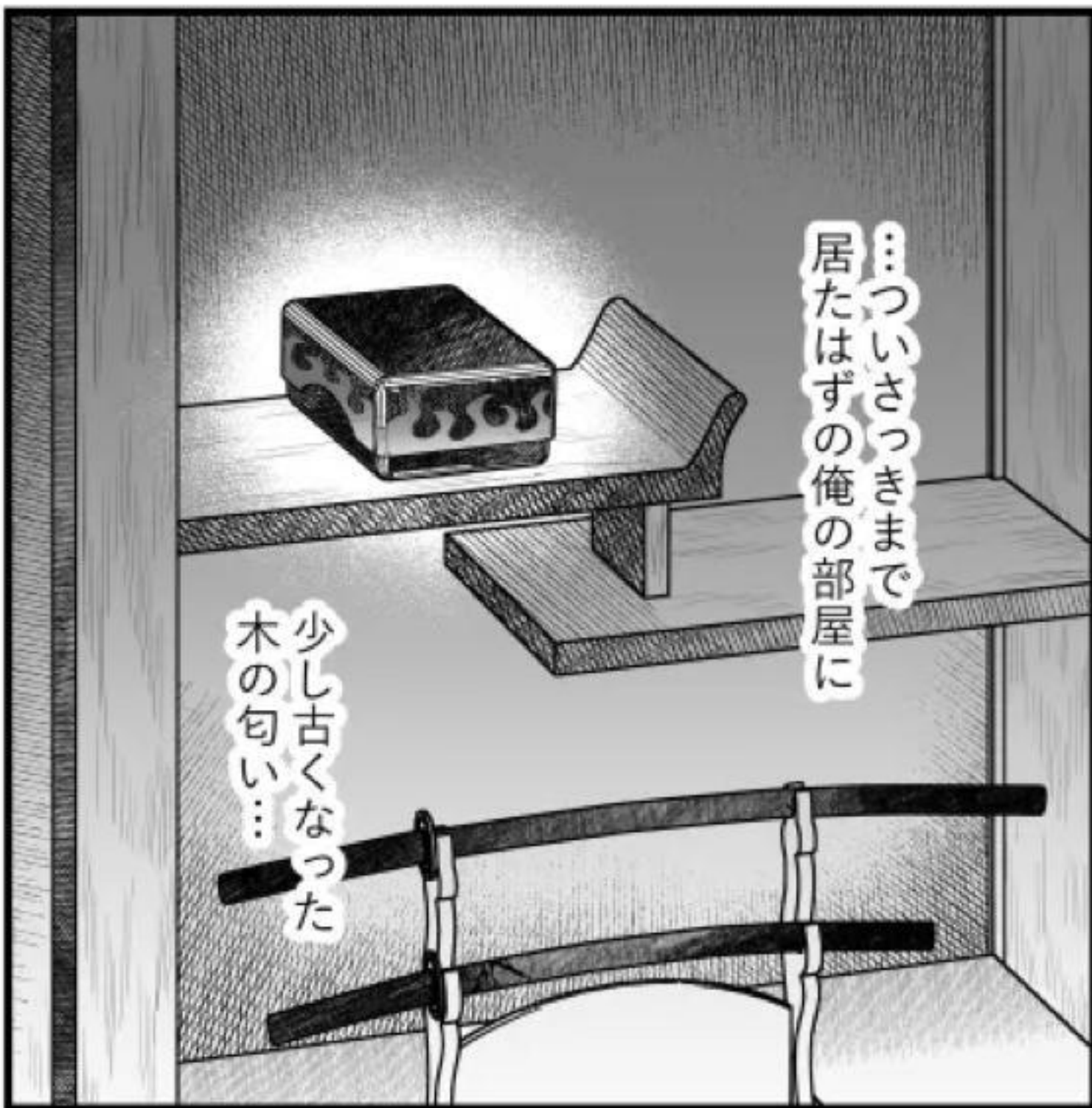
何も
変わっていない

君が
俺の元に來たのは
必然だった









…ついさっきまで
居たはずの俺の部屋に

少し古くなった
木の匂い…



…



他の者に
使わせるのは
忍びなくてな…

手入れは
していたが



—…あの後すぐに

要に限なく
崖下を探させた

動けるように
なってからは
自分でも時間の許す限り
何度も足を運んだが

…君の欠片さえ
見つからなかった

僅かな血痕さえ—





君とずっと...



見たかったから――



どれだけの
寂しさを抱えて

待っていたのだろう



…っ俺は…

俺はあなたにっ…

杏寿郎さんっ…!!

どれだけの…
寂しい思いを…!!



ぎゅーっ……

ああ……

ああ……

君だ

炭治郎——

俺の炭治郎……っ



……いいんだ

何より俺が
君と生きるため
待つことを望んだ

そして
この瞬間

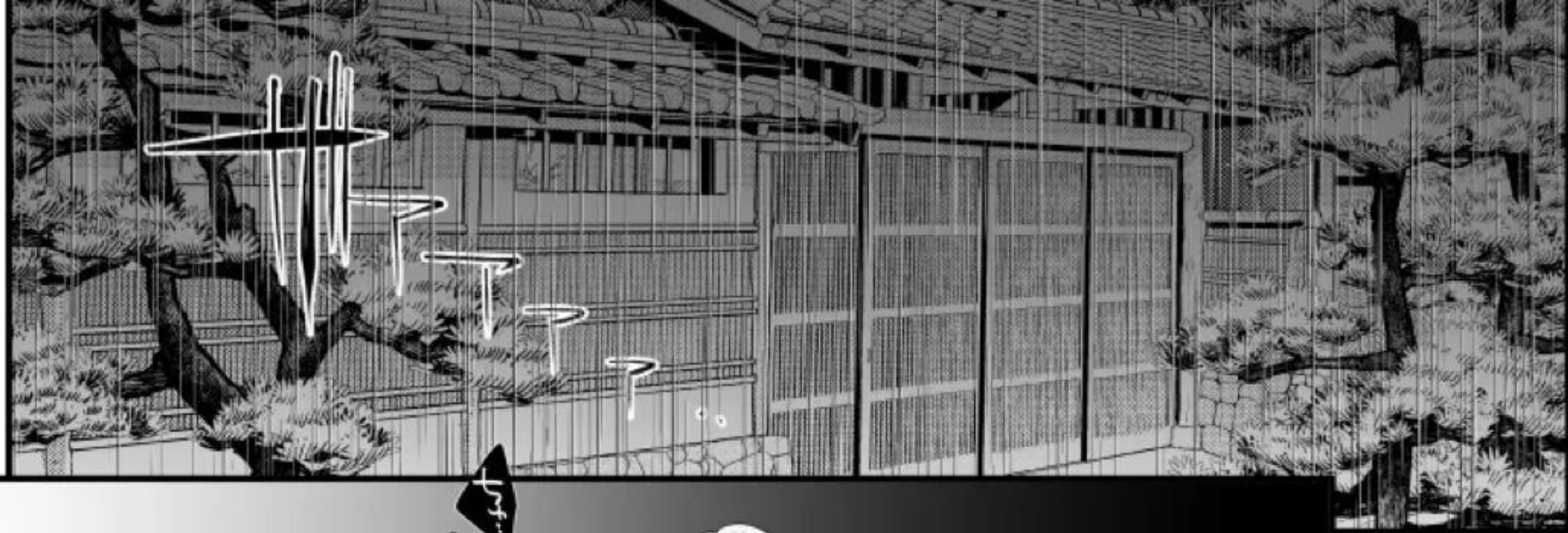
腕の中に
君がいるのなら



...もう...

それだけで







先の未来で
会えると...

信じていた...



...どんなに...
縋ったって...
君への想いが
募った

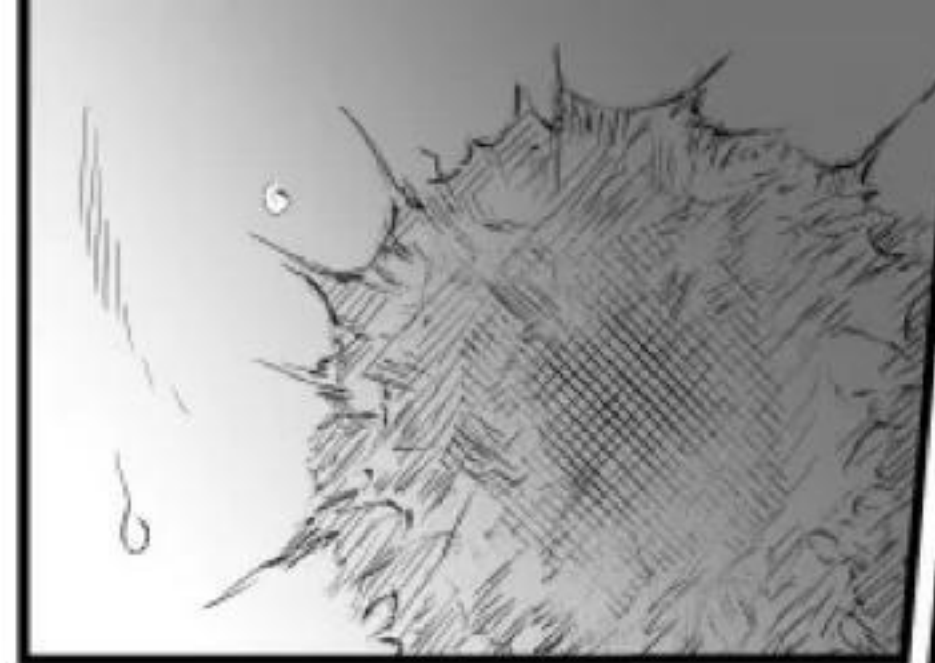
そうやって
自分の喪失を騙して
過ごしてきたけれど



あの時
共に見たような
美しい月を
見るたびに...

君に会いたくて





…君がまた
虚空に消えて
しまわないように…

早く俺のものに
したいんだ



……俺はまた
救えなかった…

どんなことをしても
未来を聞いてもらう
べきだったのに…



…あなたを
孤独にして
傷つけた上…



…それは違う

俺は何があろうと
運命に立ち向かうと
言っただろう？

君がいなくなって
からその後

鍛錬を増やし
自己を高めた

君が悲しまないように
できうる限り米を炊き
あたたかい食事をした

強い鼓動

皮膚の下に
熱い血潮

千寿郎と共に
元気でいられるよう
心がけた

次会えた時に
恥じない自分で
ありたかった

俺を強くした

煉獄さんは
生きている……

…君が
与えてくれた
糧が

資本を支え

鍛え

きつと君と
出会わなければ
助からない命であった



何度も何度も
淵から俺を
引き上げてくれる…

君がまた
救ってくれたんだ

君だけが…!

いつだって
俺の理解者だ

いつだって味方で…

炭治郎



…ッあ…!?

ああ…ッ
ア!?



君のいなくなった
日々は虚ろで



空虚で



……っ 炭治郎
っ……！





運命は



切り開き
立ち向かうものだ



それがどんなに
痛みを伴おうとも

……っ

は……

……杏寿郎さんの……



幸せを……
願っていました……



けれど願うだけじゃ
駄目だって
気づいたんです……

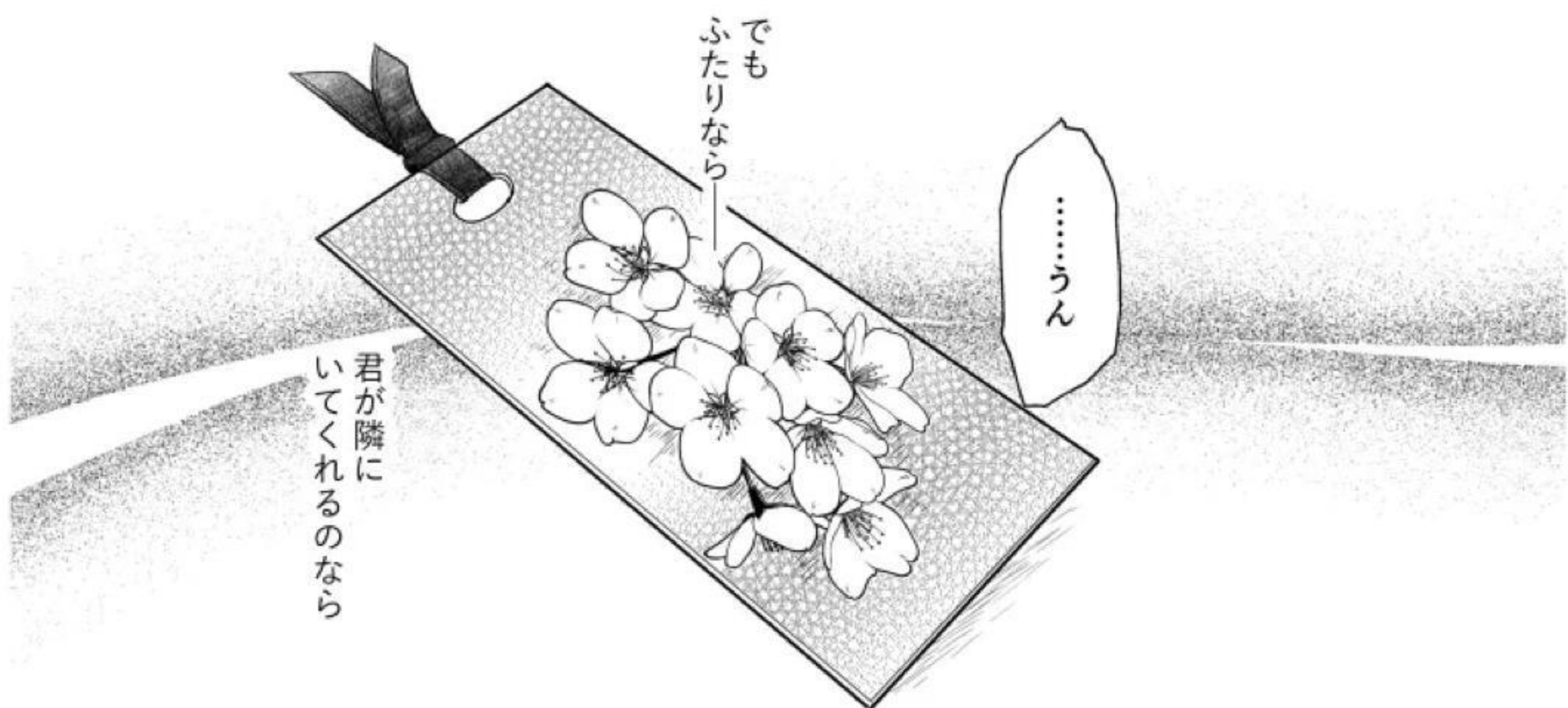
自分の足で
勇気をもって
一歩踏み出すことを
あなたに教わった

重き一歩を踏み出し
前に進むのだ

……俺は……

これから先の未来も
ずっと共に
歩いて行きたい……

……だから
他の誰でもなく
俺が――



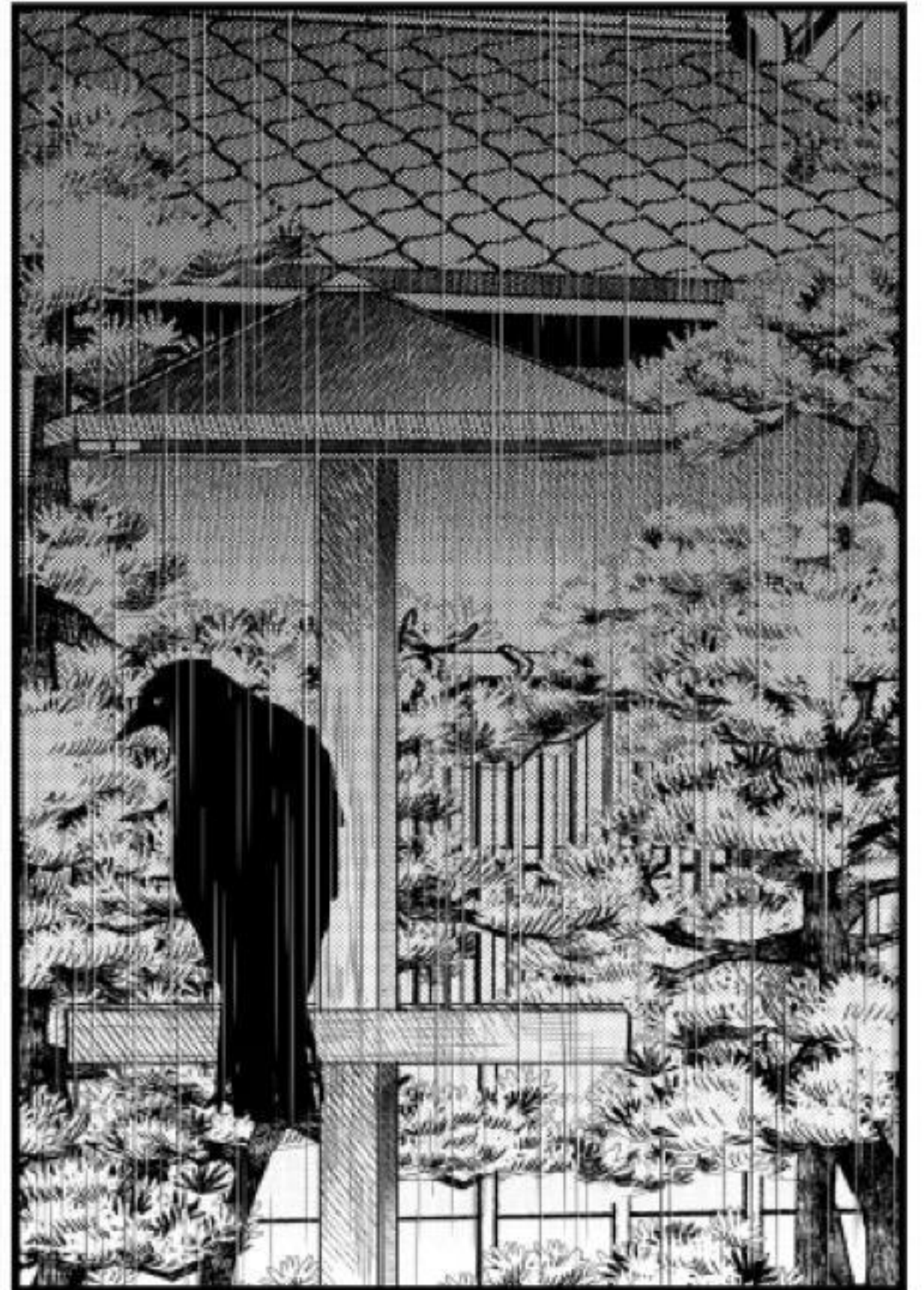
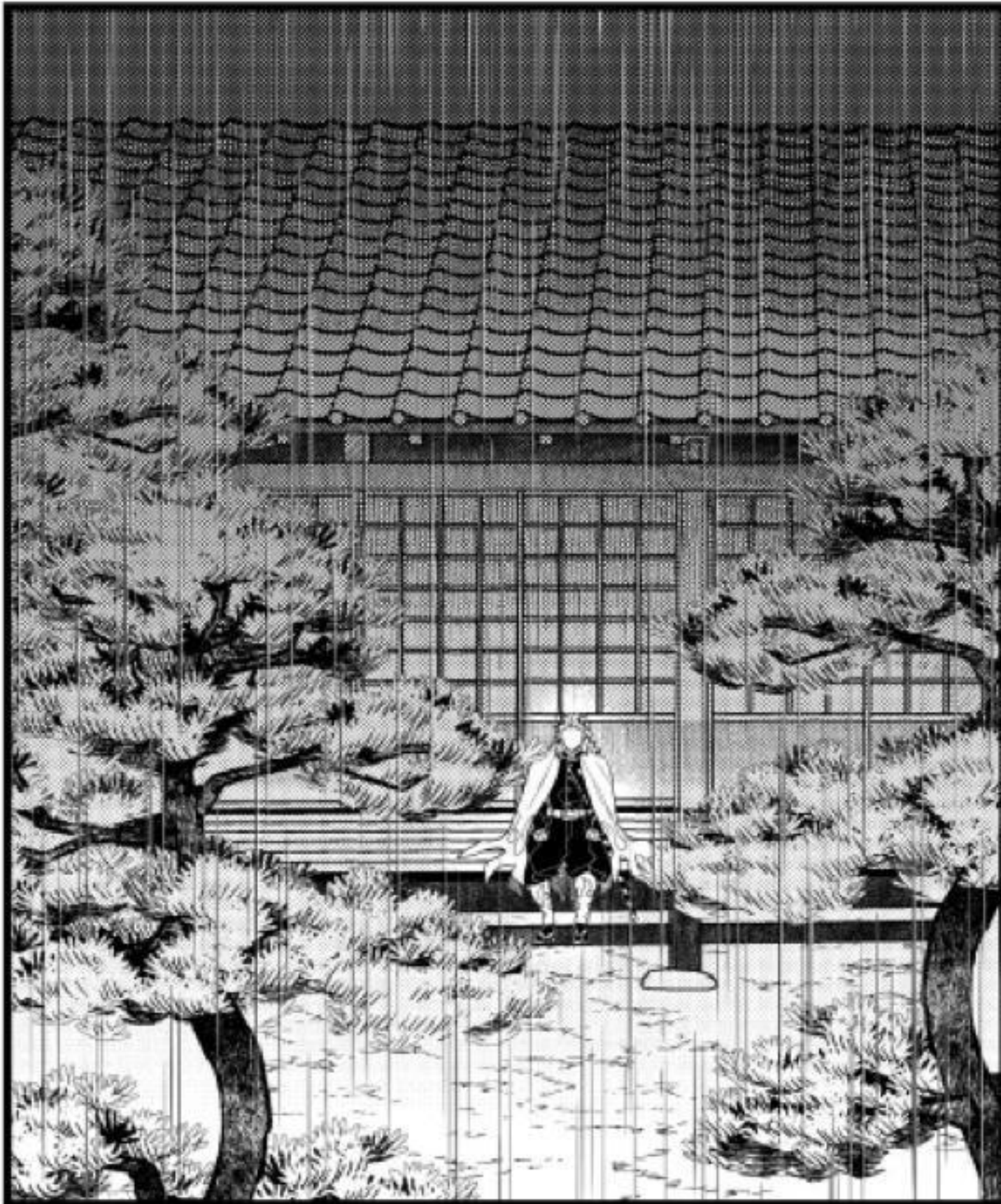
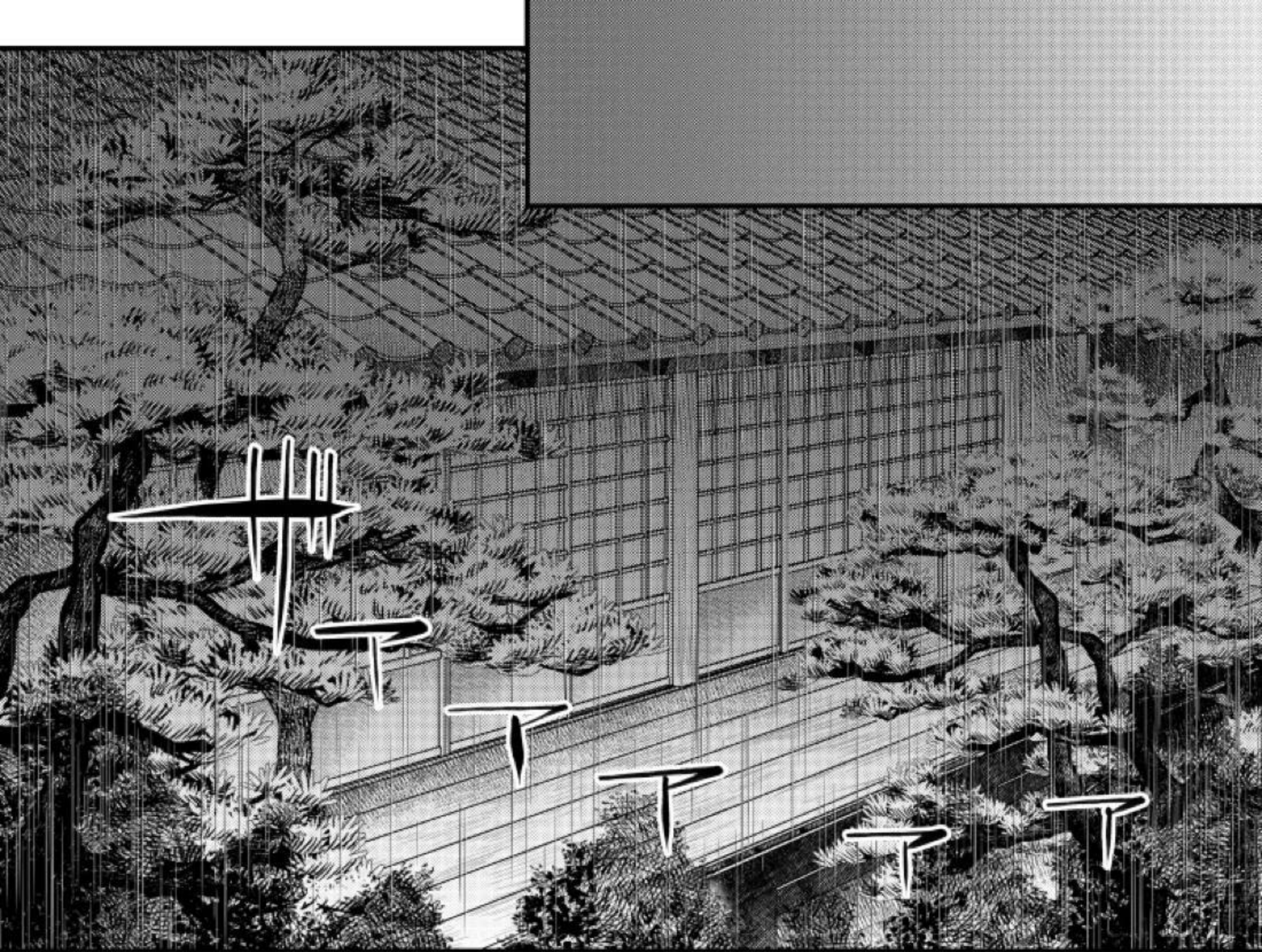
花を愛でながら行こう

風を感じながら歩こう

手を繋いで

黎明の果てまでも









…あの夜のように



美しい月こそ
出てはいないが



すとい



君の温かさは
あの時のままだな





千寿郎も
君がいなくなったことを
寂しがつていたから

後で顔を
見せてやってくれ

きっと驚くだろうが
戻ったことを
喜ぶはずだ



.....

.....父上は

未だ頑な
ではあるが

あれ以降
俺の炊いた米だけは
時折食べてくださる
ようになったよ

今度は父上にも
ちゃんと
紹介したい

.....まいった

...離れがたいな







……あなたの心に
寄り添えるなら
何でもします



それは時として
自己を滅ぼす



君は変わらず
俺を甘やかすのが
上手い



固執や
執着――

ああ

よもや

では誓ってくれ

毒となったのだろうか

君知らず

言霊を

今日の良き日に
結びます

素晴らしき伴侶に
出会えましたことを
心から喜び

かげろう
陽炎のような君を
待つ日々は

あいわ
相和し

あいやまい
相敬い

苦楽を共にし

愛情と信頼をもって

とても長く

長く



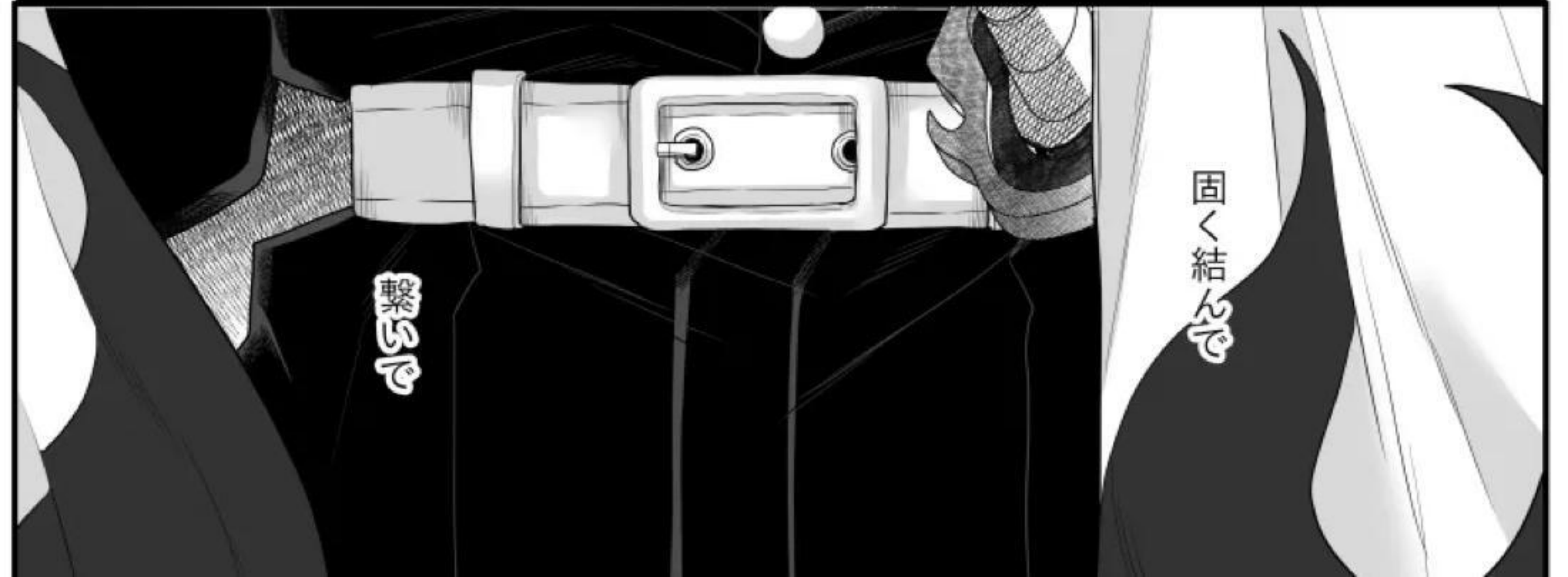


死が分かつとも

永劫心離れぬことを



そう



固く結んで

繋いで







ああ
そうだ…

違うない…

この言霊は
ずっと一緒に
いられる

強い呪い
——

愛を紡ぎ

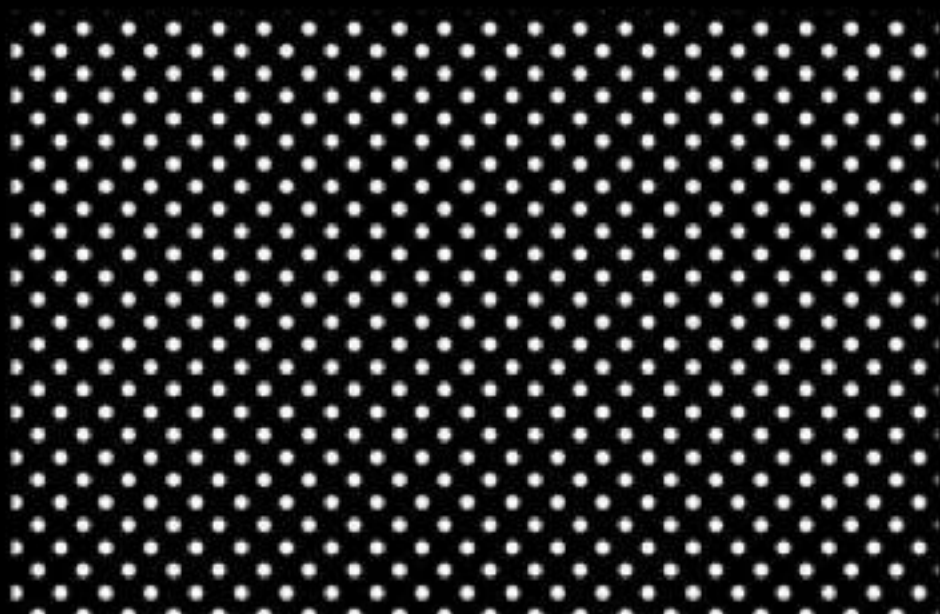
交わる
結びの先には



たまむす
魂結び

終

あまのまにちたはるはすゝめ
はるはるはるはるはるはるはる



ヒ ス ム フ 9

僕ほんとはよくしりません
 ぴー【@eagleacee】

